

平成30年度版

連携型中高一貫教育に係るアンケート調査

# 結果と考察



中高生による次世代議会（平成30年12月26日）

# 神石高原町教育委員会

## 目 次

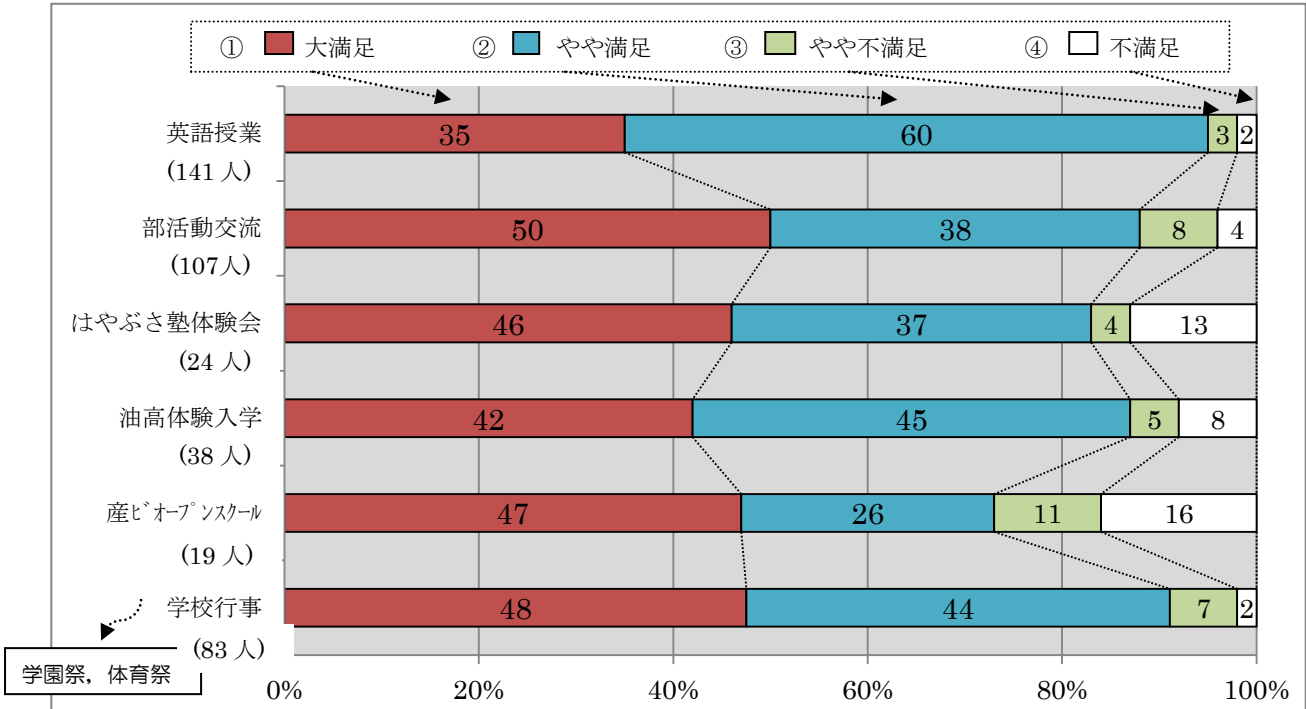
	ページ
I. 中 学 生 編 .....	1 ~ 7
II. 高 校 生 編 .....	8 ~ 14
III. 中・高教職員編 .....	15 ~ 18
IV. 小・中学校保護者編 .....	19 ~ 24
V. 地 域 編 .....	25 ~ 27

## 回 答 者 数

1. 中 学 生	回答者数 <u>155人</u> / 在籍者数 167人
2. 高 校 生	回答者数 <u>175人</u> / 在籍者数 191人
3. 中・高教職員	回答者数 <u>47人</u> / 全教職員数 50人
4. 小学校保護者	回答者数 <u>147人</u> / 対象児童数 164人
5. 中学校保護者	回答者数 <u>151人</u> / 生徒総数 167人
6. 地 域	回答者数 <u>81人</u> / 質問者数 104人

# I. 町内中学生 に係るアンケート調査の結果と考察

1 本年度、油木高校の先生や生徒さんから指導してもらったり、行事に参加したことがある人は、下の該当する項目のみ、その感想を教えてください。

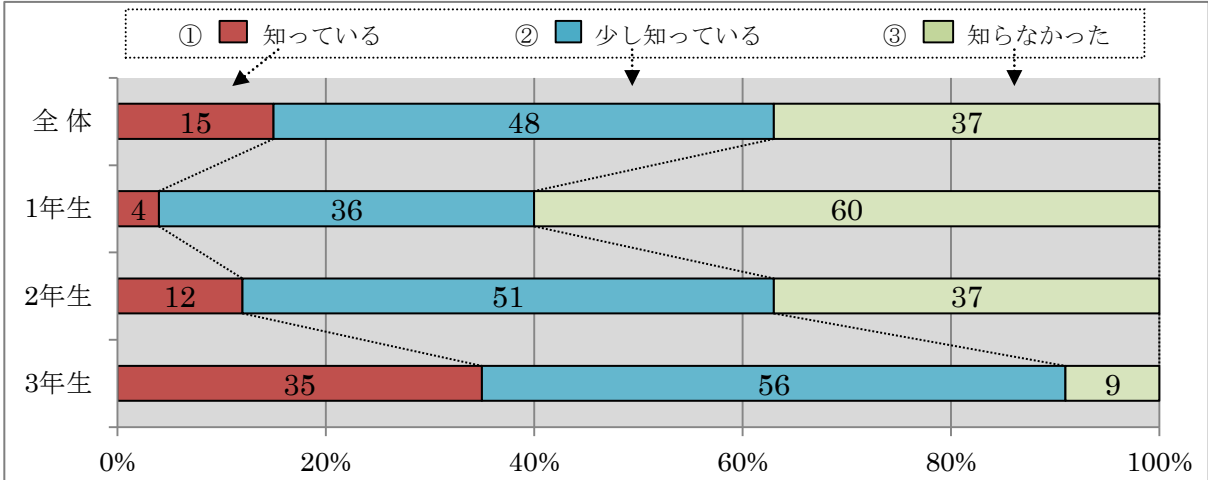


**考察** 交流授業で「英語」の授業満足度は95%（昨年：94%）が「大満足・やや満足」で、本年度も高い肯定的評価であった。今後も一層効果的な交流授業を実践していくために、連携校三校による教科部会や生徒への授業アンケート調査などを計画的に実施し、一層効果的な授業がなされることを期待する。

その他の項目（部活動・はやぶさ塾・3年体験入学・産ビオープンスクール・学習成果発表会・学校行事）においても、約75%以上の高い肯定的評価だが、それぞれに課題もあるので関係部署を中心に検討され、充実した連携教育活動が展開されていく必要がある。

2 神石高原町では「油木高校の魅力づくり」として、色々な支援（通信衛星授業の受信補助・部活動遠征費補助・学習支援塾「はやぶさ塾」の開設・海外＜短期・長期＞研修事業への支援・各種検定受検料の補助）などを実施していますが、そのことについて次の(1)～(6)の質問に教えてください。

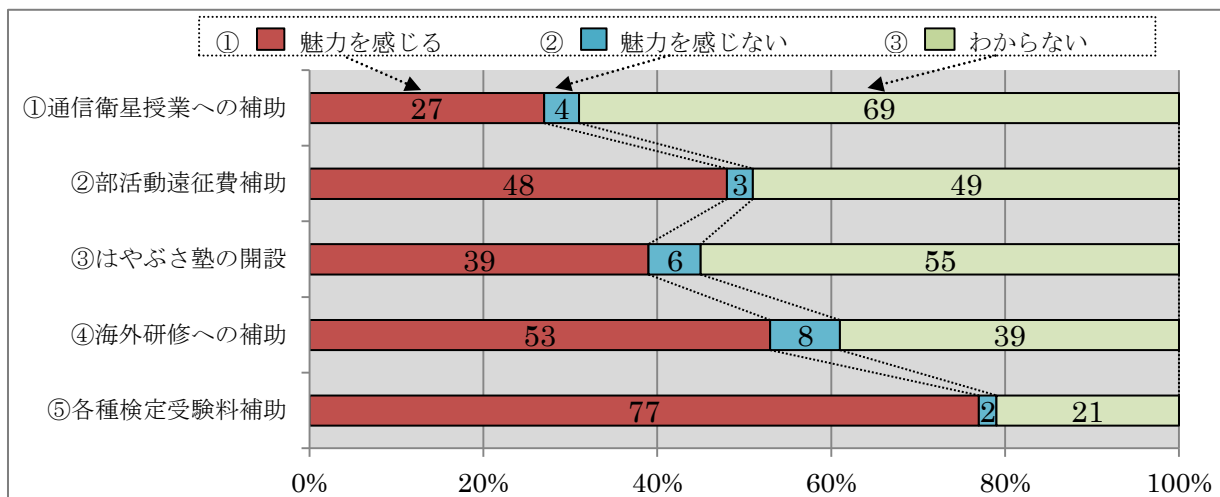
(1) 油木高校への色々な支援内容について知っていますか。



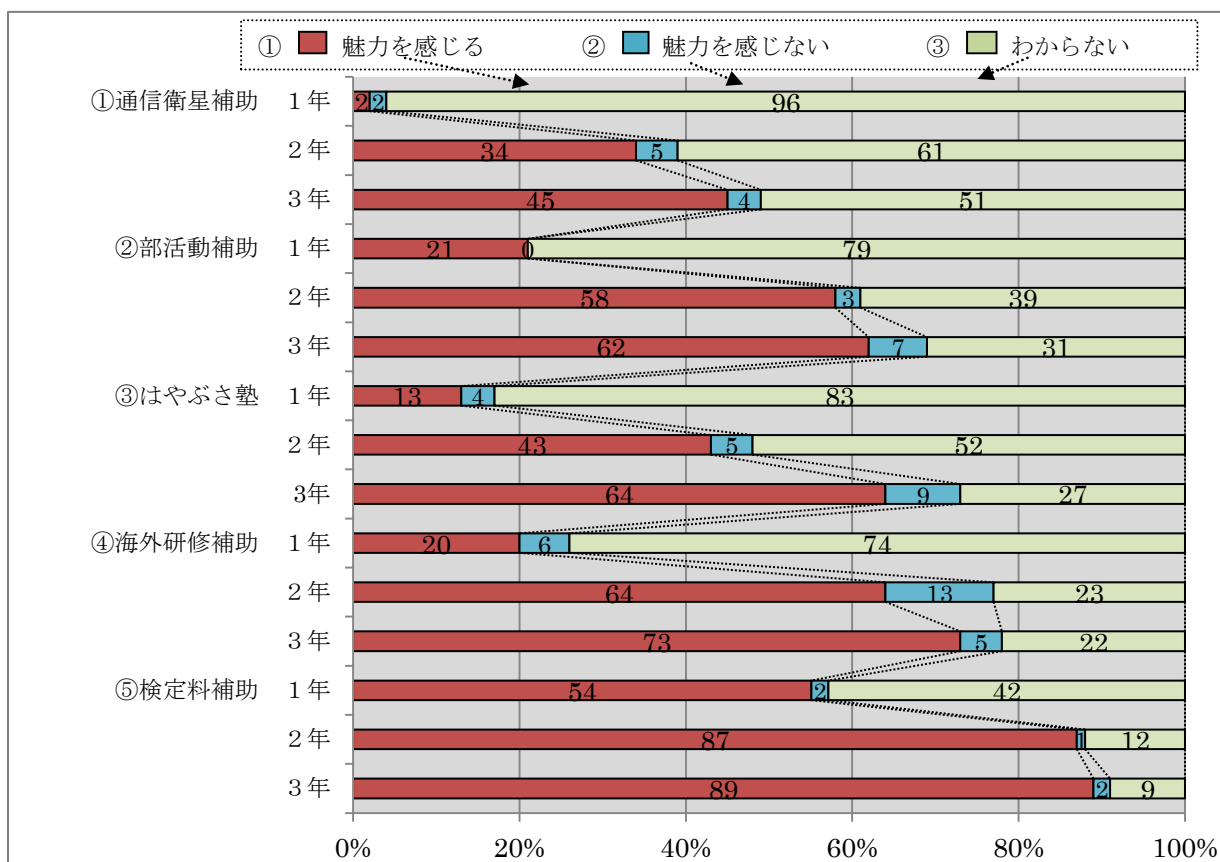
**考察** ・支援内容の認知度は、高学年になるほど「知っている」率は高くなっているものの、はっきりと「知っている」と言えるのは15%で、この支援内容は「油木高校の魅力」でもあるので、十分理解してもらうことが重要で、引き続き理解度を高めていくための情報提供（10の支援メニュー）が必要である。

(2) 次のような支援（① 通信衛星授業への補助 ② 部活動遠征費補助 ③ はやぶさ塾の開設 ④ 海外短期長期研修への補助 ⑤ 各種検定受験料の補助）についてどう思いますか。

< 2校全体では >



< 学年別では >

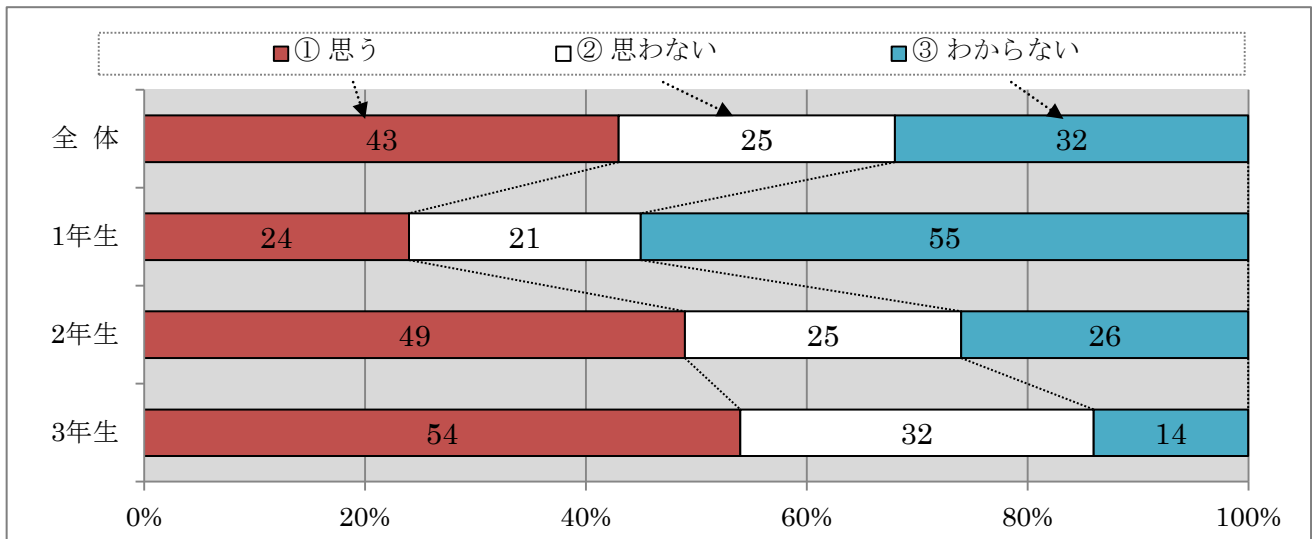


**考察** ・2校全体で、「魅力を感じる」が50%以上を占めているのは、「海外研修への補助」と「各種検定受験料補助」である。

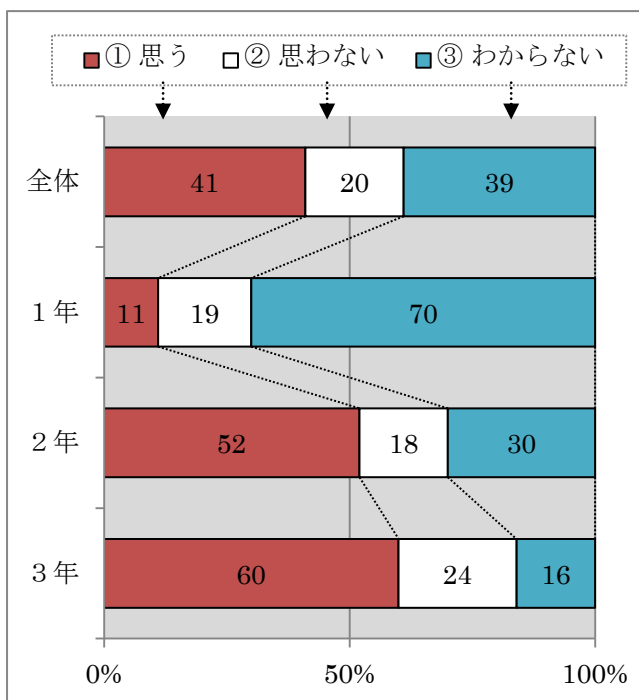
・学年別で見た時、いずれの項目も2、3年生の評価が高く、特に3年生は「通信衛星授業への補助」以外は60%以上「魅力を感じる」と回答している。一方、「わからない」との回答も多くあり、情報提供に課題がある。

③ (1) あなたは油木高校に進学したいと思いますか。

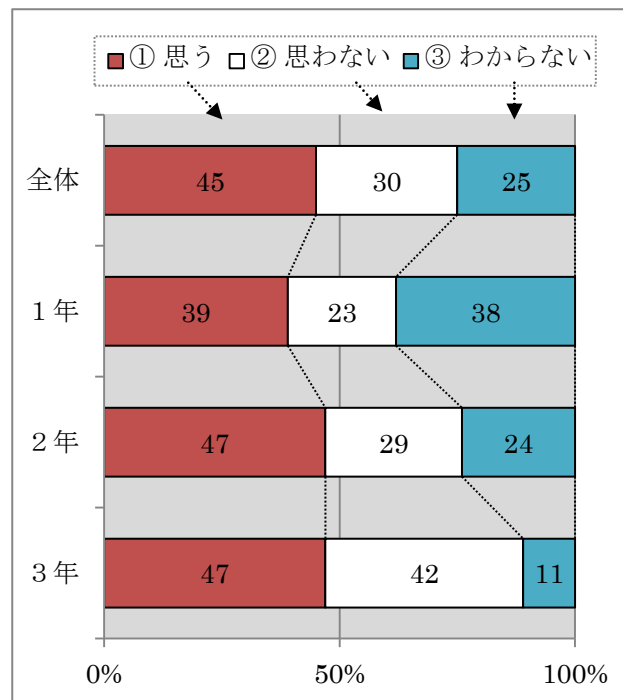
< 2校全体では >



< 三和中 >



< 神石高原中 >



**考察** ・2校全体では、油木高校へ進学したいと「思う」は43%（前年41%、前々年40%）とやや増加傾向にあり、「思わない」は25%（前年27%、前々年28%）とやや減少傾向にあることは喜ばしいことである。

・全体の学年別では、3年生が例年のごとく「思う」が50%以上で、2年生が初めて40%以上になった。

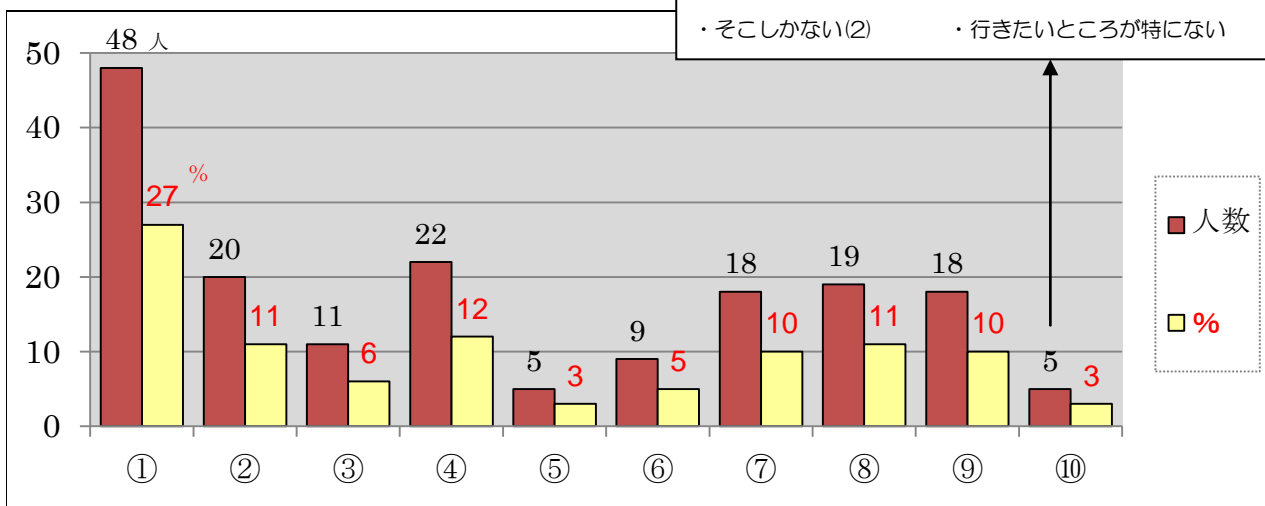
・学校別では、「思う」の50%以上は三和中の2・3年生で、特に2年生が50%以上になったのは初めてである。これには何か取り組みの原因的なものがあれば、みんなで共有していくことが重要である。 ← 4ページ参照

・毎年確認していることで、油木高校への地元率は60%以上を目標に、尚かつ学年54人以上（学年定員80人の2/3以上：県教委の指針数値）の生徒確保が重要である。この数値をお互いに共有し合って取り組んでいく必要がある。

(2) 3(1)の質問で「①(油木高校へ進学したいと)思う」と答えた人で、その理由と思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

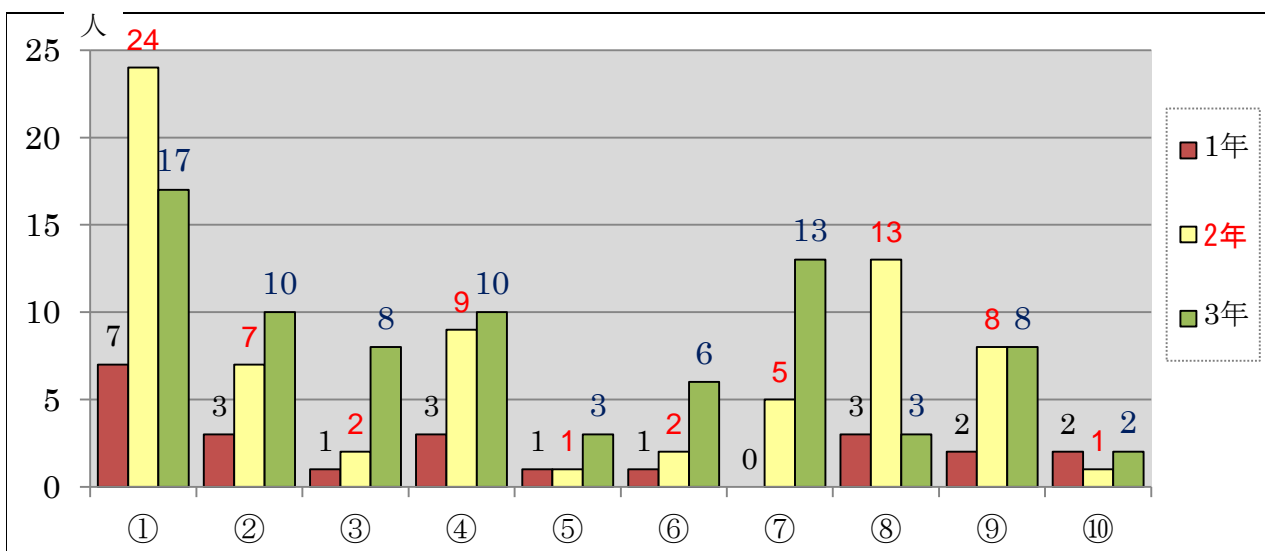
- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 教育内容面 ④ クラブ活動面 ⑤ 寮がある ⑥ 施設設備がよい  
⑦ 町の支援(サテライン、公営塾、海外研修等)がある ⑧ 親・家族の薦め ⑨ 友人関係 ⑩ その他

< 2校全体では >



< 学年別の人数では >

- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 教育内容面 ④ クラブ活動面 ⑤ 寮がある ⑥ 施設設備がよい  
⑦ 町の支援(サテライン、公営塾、海外研修等)がある ⑧ 親・家族の薦め ⑨ 友人関係 ⑩ その他



**考察** ・2校全体で多い順は、1位：①「通学に便利」(27%)、2位：④「クラブ活動面」(12%)、3位：②「進路実績」(11%)となっている。

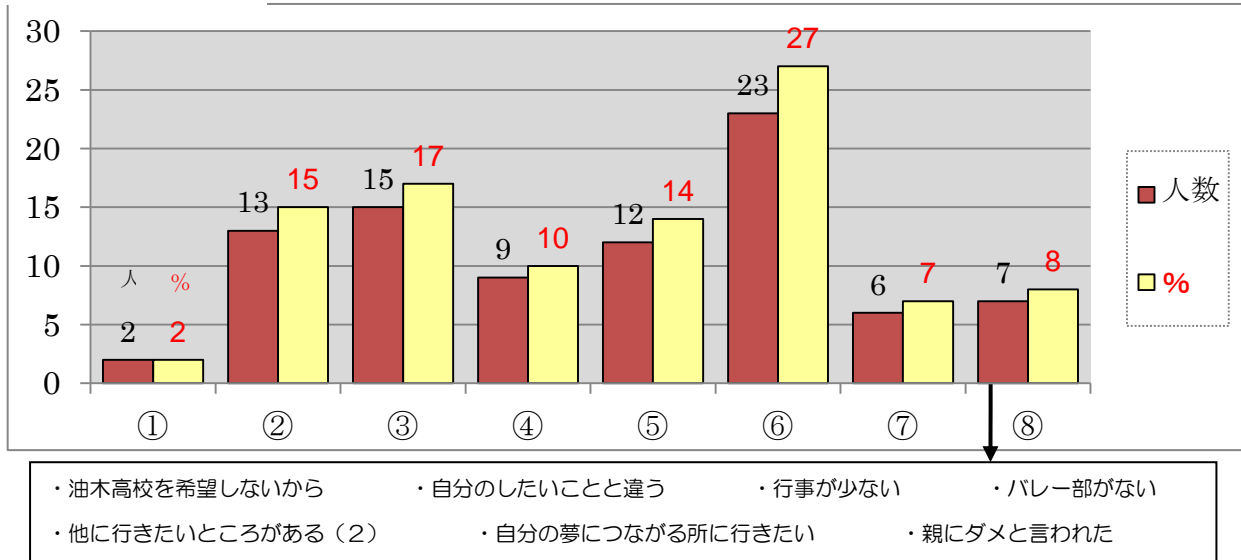
・学年別で特徴的なものとして、3年生が⑦「町の支援」を多く挙げている。また、2年生が⑧「親・家族の薦め」を多く挙げているのが本年度の特徴である。

・⑩「その他」で「地域学ができる。楽しい学校生活ができそう」と前向きにとらえている生徒もいる。

(3) 3(1)の質問で「②(油木高校へ進学したいと) 思わない」と答えた人で、その理由と思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

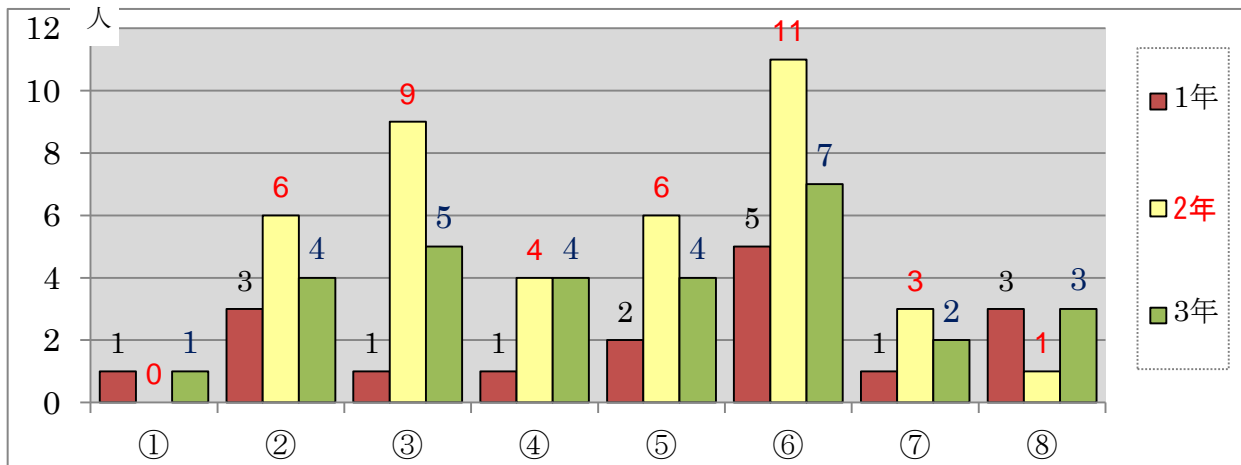
- |            |           |          |         |
|------------|-----------|----------|---------|
| ① 通学が不便    | ② 教育内容面   | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面 | ⑦ 友人関係   | ⑧ その他   |

<2校全体では>



<学年別の人数では>

- |            |           |          |         |
|------------|-----------|----------|---------|
| ① 通学が不便    | ② 教育内容面   | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面 | ⑦ 友人関係   | ⑧ その他   |



**考察** ・2校全体で多いのは、1位：⑥「高卒後の進路面」(27%)、2位：③「クラブ活動面」(17%)、3位：②「教育内容面」(15%)となっており、ほぼ例年と同様であった。

4ページ参照

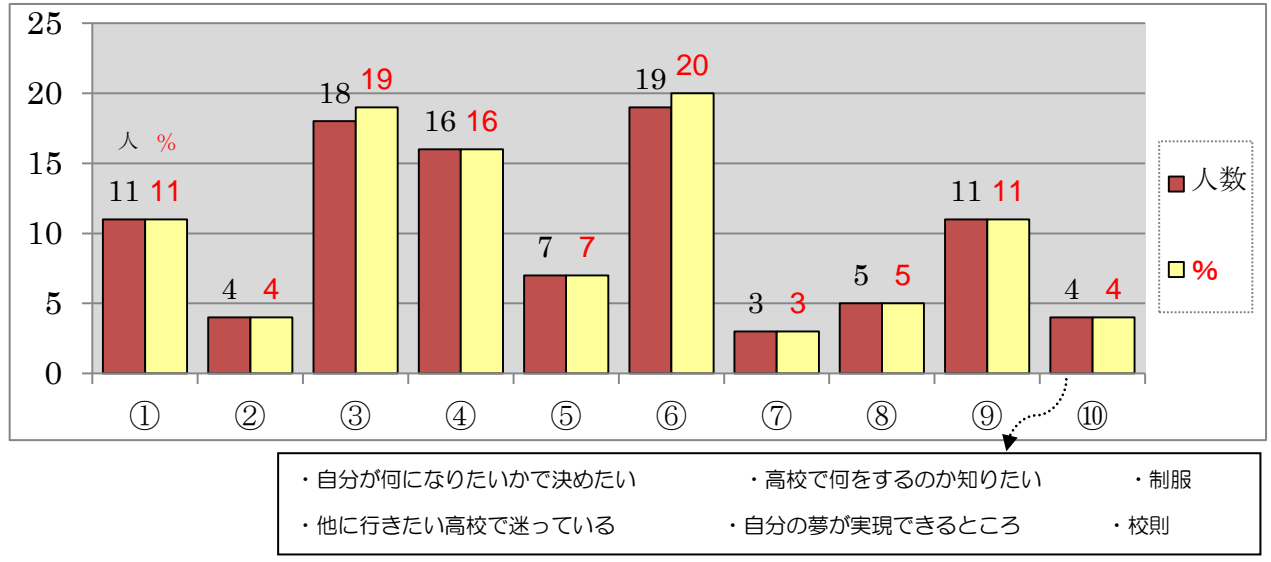
・例年「(油木高校へ進学したいと) 思わない」理由の中で「高卒後の進路面」が多くあるが、反対に「(油木高校へ進学したいと) 思う」理由に「進路実績」をあげている生徒も多い。いずれにしても「油木高校の進路指導や進路実績」を中学生に分かりやすく説明したり、ホームページ上で紹介していくことが重要である。

・各中学校において、油木高校生(特に出身中学生)が頑張っている姿を機会あるごとに後輩中学生に語って頂いたり、直接高校生が中学生に話していく機会が持てれば、大変効果があると思われる。←(高校は中学校へ随時しっかりと情報提供していく)

(4) 3(1)の質問で「③ わからない」と答えた人で、今後自分が進路選択する(高校を選ぶ)上で、重要視したいことはどんなことですか。 下記の①～⑩の中から重要視したいものを2つ選び、番号で教えてください。

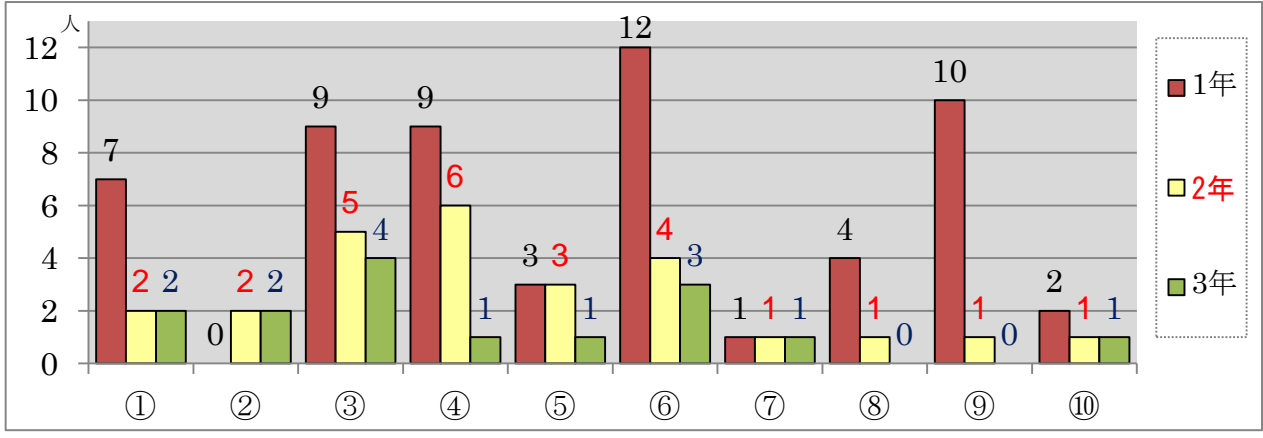
- |          |                |            |         |         |
|----------|----------------|------------|---------|---------|
| ① 通学便    | ② 伝統や校風        | ③ 進路実績     | ④ 教育内容面 | ⑤ 施設設備面 |
| ⑥ クラブ活動面 | ⑦ 市町からの色々な支援制度 | ⑧ 親や家族のすすめ | ⑨ 友人関係  | ⑩ その他   |

<2校全体では>



- |          |                |            |         |         |
|----------|----------------|------------|---------|---------|
| ① 通学便    | ② 伝統や校風        | ③ 進路実績     | ④ 教育内容面 | ⑤ 施設設備面 |
| ⑥ クラブ活動面 | ⑦ 市町からの色々な支援制度 | ⑧ 親や家族のすすめ | ⑨ 友人関係  | ⑩ その他   |

<各学年別の人数では>



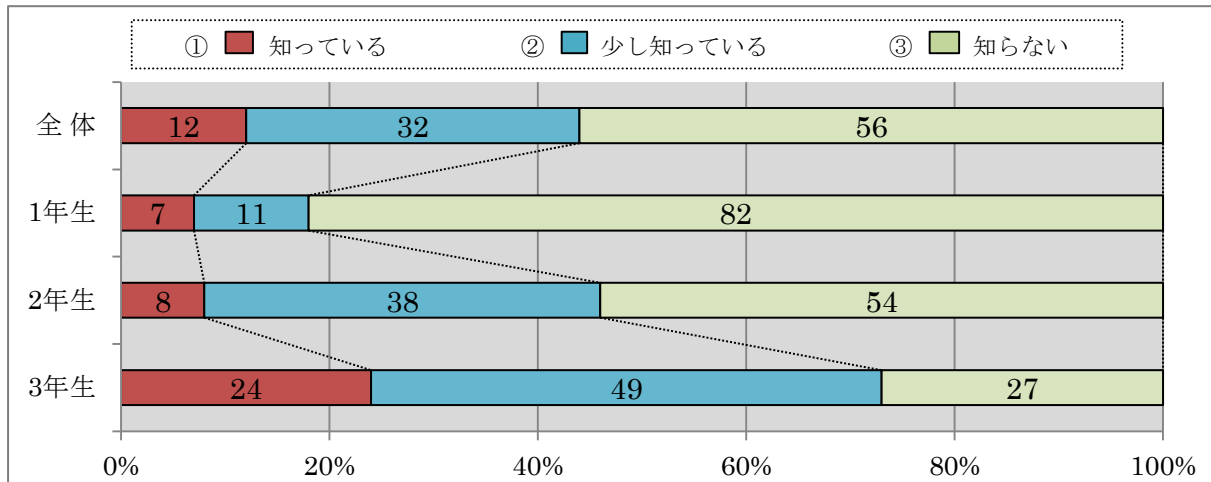
**考察** ・2校全体で多い順は、1位：⑥「クラブ活動面」(20%)、2位：③「進路実績」(19%)、3位：④「教育内容面」(16%)となっており、例年とまったく同じである。

・各学年別に見たときの特徴として、1年生は⑥「クラブ活動面」や⑨「友人関係」が他学年に比べて多く、2・3年生は③「進路実績」や④「教育内容面」が多く、多少学年によって違いがある。

・年度によって多少の違いはあるものの、生徒が高校選択する時の重要項目としては、⑥「クラブ活動面」③「進路実績」④「教育内容面」に収れんできる。よって、それらが充実していくような取り組みや支援策を今後も検討していく必要がある。



4 神石高原町では油木高校のさらなる魅力づくりを創出するために、慶応大学の協力のもと、「油木高校魅力化+プロジェクト」に取り組んでおり、その具体策（神ゼミ、ドローンアカデミー、地域学 など）を現在検討中ですが、その「油木高校魅力化+プロジェクト」のことを知っていますか。



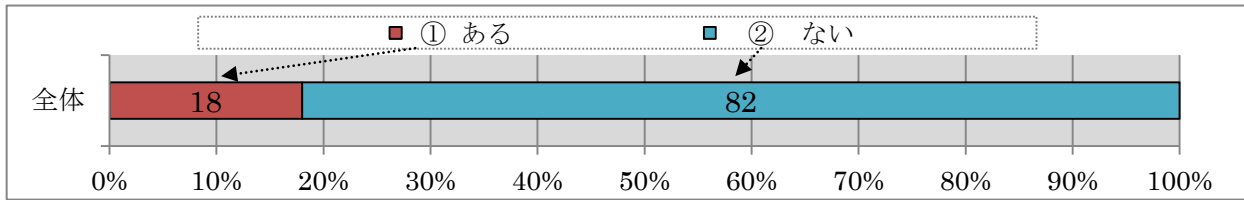
**考察** ・本年度はまだ中学生に十分な情報提供がなされていないにもかかわらず、本町として「油木高校の魅力づくり」に取り組んでいることを多少でも知っている生徒がいるが、今後しっかりと情報提供し、アピールしていく必要がある。

・油木高校を進学希望する中学生の中で、この「油木高校魅力化+プロジェクト」の中身に期待して選択している生徒もいるようなので、その期待を裏切らない取り組みが必要である。

選択理由：油木高校で地域学習ができる

## Ⅱ. 油木高校生に係るアンケート調査の結果と考察

① (1) あなたは本年度、中高連携で町内の中学生を指導したり、一緒に活動したことがありますか。

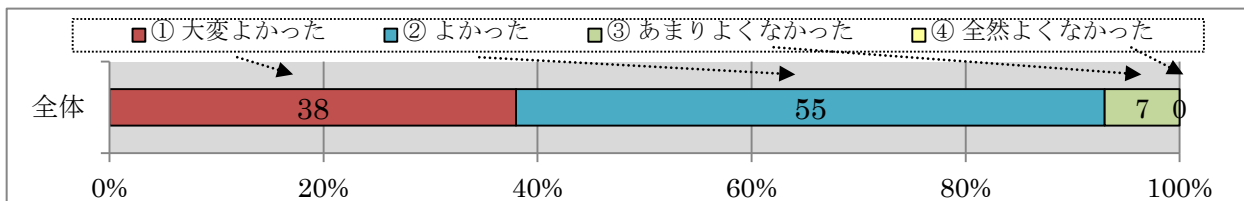


「ある」と答えた生徒は わずかに 32 人（18%）で、昨年度 41 人（23%）より若干減少している。

活動内容としては

・部活動 ・植栽 ・文化祭

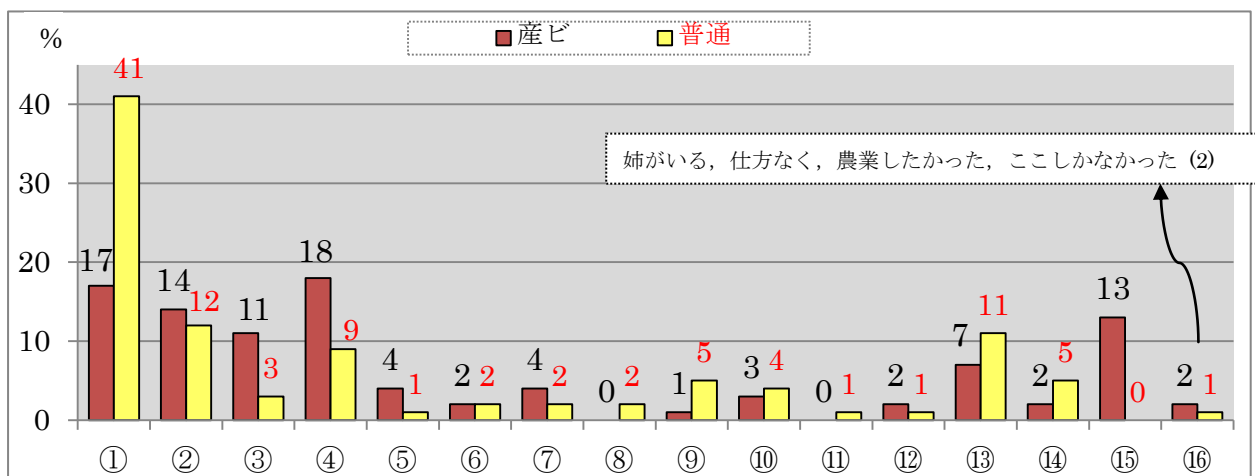
(2) (1)の質問で「①ある」と答えた人で、それはどうでしたか。



**考察** 生徒同士の交流人数は昨年度より若干減少している。その要因の一つに交通手段に問題があるようである。また、部にも固定化があるようだ。しかし、交流した多くの生徒（93%）は「大変よかった・よかった」と非常に高い肯定的評価をしているだけに、今後できるだけ多くの生徒が交流できるよう、課題への対策を講じていく必要がある。

② あなたが油木高校を進路選択した理由は何ですか。（複数回答可）

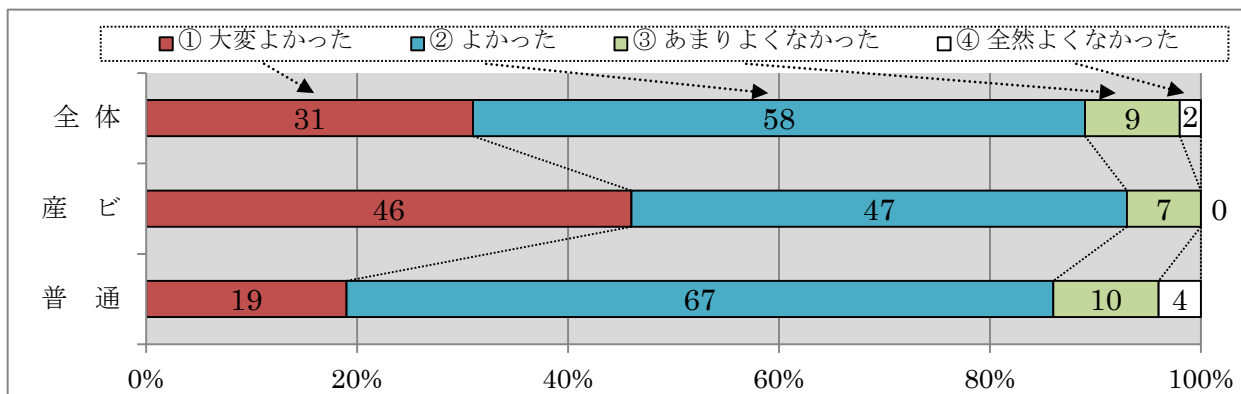
- |            |           |          |             |
|------------|-----------|----------|-------------|
| ① 自宅から近い   | ② 親・家族の薦め | ③ 先生の薦め  | ④ 自分の希望     |
| ⑤ 教育内容面    | ⑥ 部活動面    | ⑦ 寮がある   | ⑧ 通信衛星授業がある |
| ⑨ はやぶさ塾がある | ⑩ 海外研修がある | ⑪ 進路実績   | ⑫ 評判        |
| ⑬ 友人関係     | ⑭ 経費が安い   | ⑮ 学科への興味 | ⑯ その他（ ）    |



**考察** ・全体的に多いのは、①「自宅から近い」④「自分の希望」②「親・家族の薦め」の順である。

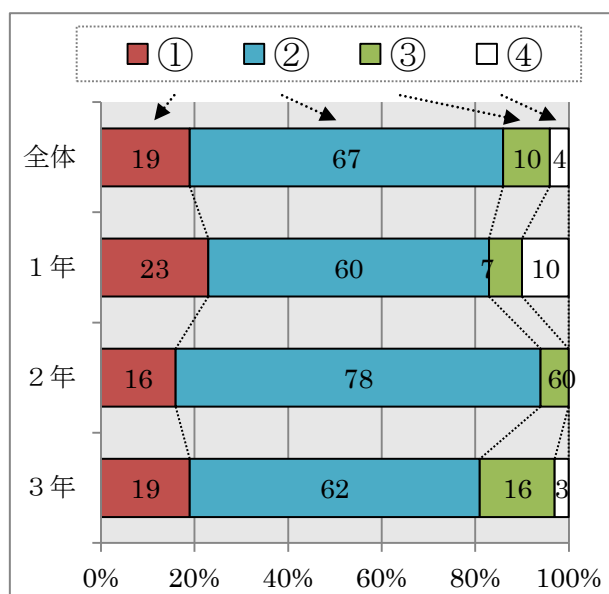
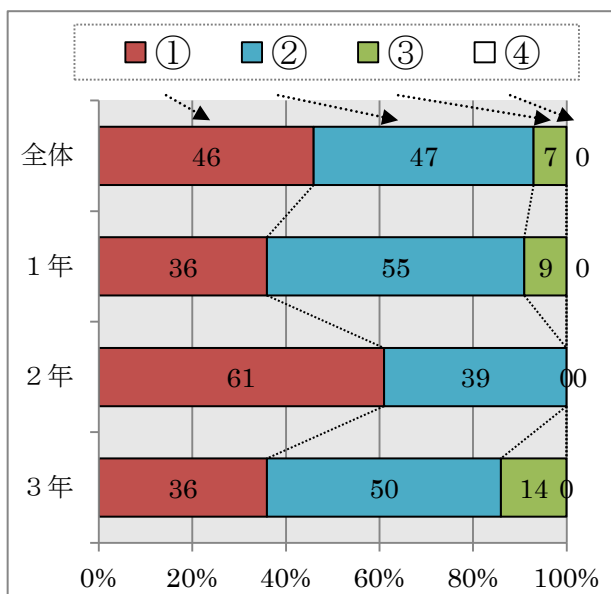
・学科ごとにみると、普通科は圧倒的に①「自宅から近い」が多く、産業ビジネス科では、④「自分の希望」や①「自宅から近い」②「親・家族の薦め」⑮「学科への興味」など選択理由が多いのが特徴としてあげられる。

③ あなたは油木高校へ進学して、どうでしたか。



< 産業ビジネス科 >

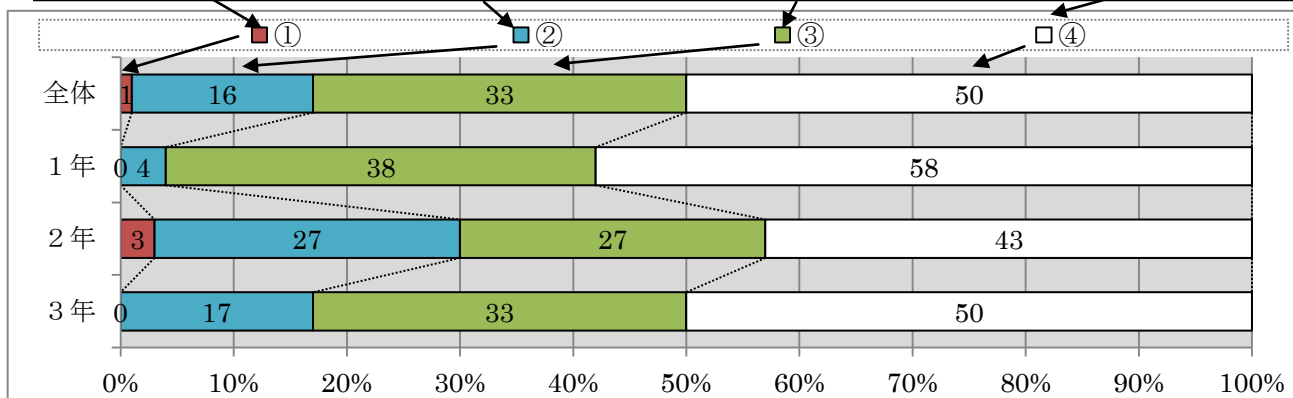
< 普通科 >



**考察** ・全体では、例年と同様に多くの生徒（89%：昨年度91%）が「よかった」と肯定的評価をしている。  
 ・学科ごとにみると、「大変よかった」とする者が、産業ビジネス科で46%と半数近くいるが、普通科は19%であった。反対に「よくなかった」と否定的評価をしている生徒は、産ビ7%、普通科14%であった。その中で、「全然よくなかった」とする生徒は、産ビ0%、普通科4%であった。  
 ・学年ごとでは、産ビ科2年生の61%が「大変よかった」、あとの39%は「よかった」と全員が肯定的評価しているのが特徴的である。

④ (1) 本町では「油木高校生への10の支援」を実施していますが、その内容について知っていますか。

① 8つ以上は知っている    ② 5～7は知っている    ③ 3～4ぐらいは知っている    ④ ほとんど知らない



**考察** 「5つ以上は知っている」が全体で17%と認知度が低い。中でも「ほとんど知らない」が50%あり、本町役場関係課において今後も引き続き広報活動に努めながら、油木高校の魅力をアピールしていく必要がある。  
 なお、「油木高校生への10の支援」リーフレットの学校送付時には、機会を捉えて生徒への紹介をお願いします。

(2) 本年度、通信衛星授業を受けた人だけ教えてください。

Q あなたの受講状況を教えてください。

	前期・後期とも				前期だけ				後期だけ			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
産 比 科	0	1	0	1	2	1	0	3	0	1	0	1
普 通 科	2	1	1	4	7	5	4	16	0	0	0	0
計	2	2	1	5	9	6	4	19	0	1	0	1

Q 通信衛星授業を受けてみての感想はどうか？ また、そう思う理由で、具体的に何かあれば書いてください。

① 大満足    ② 満足    ③ 普通    ④ やや不満    ⑤ 不満

	普通科 (1・2・3年)	産比科 (1・2・3年)	計 (%)	理 由
①	0人 (0・0・0人)	1人 (0・1・0人)	1人 (3%)	
②	6人 (0・4・2人)	0人 (0・0・0人)	6人 (16%)	・わかりやすかったが、時間が長すぎて集中力が切れる。 ・とてもわかりやすかった
③	18人 (7・3・8人)	1人 (0・1・0人)	19人 (53%)	・質問ができない(4) ・真面目にやれば力になる(2) ・普通の授業より分かりやすかったが、内容が難しい ・テキストは良かった ・スピードが速すぎる ・時間が長い ・字がつぶれて見えない時があった
④	4人 (1・2・1人)	1人 (1・0・0人)	5人 (14%)	・朝やるのがだるい ・正直あまり効果がないと思った
⑤	1人 (1・0・0人)	4人 (1・1・2人)	5人 (14%)	・産比で習ってない所をやるのでついていけない ・長くて眠い

**考察** 受講生は年々減少傾向にある。また、受講生の満足度も低下してきているようだ。それらの理由としては、「時間が長すぎる、質問ができない、産比と授業内容が違いすぎる」などを理由に挙げており、課題があるようである。  
 これ等の課題も含め様々な状況から、学校として来年度からは開講しない方向で整理をされたようである。

(3) 本年度、「はやぶさ塾」に参加した人だけ教えてください。

Q1 あなたの受講状況を教えてください。

	前期・後期とも				前期だけ				後期だけ			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
産 比 科	0	2	1	3	0	6	0	6	0	1	0	1
普 通 科	4	9	10	23	2	4	1	7	5	0	0	5
計	4	11	11	26	2	10	1	13	5	1	0	6

Q2 「はやぶさ塾」に参加してみたの感想はいかがですか。

① 大満足    ② 満足    ③ 普通    ④ やや不満    ⑤ 不満				
	普通科 (1・2・3年)	産ビ科 (1・2・3年)	計 (%)	理由
①	5人 (2・1・2人)	1人 (0・1・0人)	6人 (14%)	・授業の予習復習がしっかりできるから ・週2回もあるので習慣が身に付いた ・志望校に向けての対策ができた ・自分のペースでできる
②	15人 (3・6・6人)	2人 (0・1・1人)	17人 (40%)	・自分で苦手な教科を選んで出来るから ・自分の勉強したいことが自分のペースでできる ・集中して取り組める ・学校の予習復習ができるから ・センター対策や英検対策などが充実している ・センター入試に向けて準備ができた ・わからない所は聞けるのでいい ・静かな環境で勉強時間がしっかりと確保できた
③	11人 (1・5・5人)	3人 (0・3・0人)	14人 (32%)	・時間帯が合わない ・個別に教えることが少ないので、家で勉強するのと同じだと思う ・成績が上がった ・プリントをするだけ
④	1人 (0・1・0人)	3人 (0・3・0人)	4人 (9%)	・身に付いている感じがしない
⑤	0人 (0・0・0人)	2人 (0・1・1人)	2人 (5%)	

**考察** ・本年度から指導教科や時間帯を増やして実施したが、その受講者数は45名(昨年度：31名)で、そのうち通年者は26名(昨年度：23名)と、昨年度より若干増加した。  
 ・受講者の評価としては、「大満足・満足」との肯定的評価が54%と半分以上である。反対に「やや不満・不満」との否定的評価は14%であった。  
 ・本年度から塾に参加してもバスで帰宅できる配慮もなされているが、あまり多くの参加者はいないようであった。費用対効果も考えて、成果が上がるよう検討なり取り組みをしていく必要がある。

※1, 2年生のみ答えてください。

Q3 来年度、「はやぶさ塾」に参加しますか。

① 参加したい    ② 参加したくない    ③ わからない

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 参加したい	8人	2人	10人 (16%)	0人	2人	2人 (4%)	12人 (11%)
② 参加したくない	5人	14人	19人 (31%)	16人	13人	29人 (55%)	48人 (42%)
③ わからない	15人	17人	32人 (53%)	7人	15人	22人 (41%)	54人 (47%)

**考察** 現時点での「受講希望者」は、12人(11%)と大幅に減少している。これまでの受講生の満足度は高いだけに、減少の要因がつかめない。しかし、受講許容人数50人あるだけに、「わからない」が47%と約半数いるので、新1年生も含めて、十分な紹介が必要である。

(4) 次の質問については、1, 2年生のみ教えてください。

Q1 来年度、オーストラリア海外研修への参加希望がありますか。

① 希望あり ② 希望なし ③ わからない

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合 計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 希望あり	5人	7人	12人 (20%)	2人	4人	6人 (11%)	18人 (16%)
② 希望なし	15人	17人	32人 (53%)	14人	15人	29人 (55%)	61人 (54%)
③ わからない	8人	8人	16人 (27%)	7人	11人	18人 (34%)	34人 (30%)

Q2 「希望あり」と答えた生徒で、第一希望の研修期間はどちらですか。

① 短期 (2週間) ② 長期 (10週間)

	(1) 普通科			(2) 産業ビジネス科			合 計 (1)+(2)
	① 1年生	② 2年生	①+② (%)	③ 1年生	④ 2年生	③+④ (%)	
① 短 期	5人	5人	10人	2人	1人	3人	13人
② 長 期	0人	2人	2人	0人	3人	3人	5人

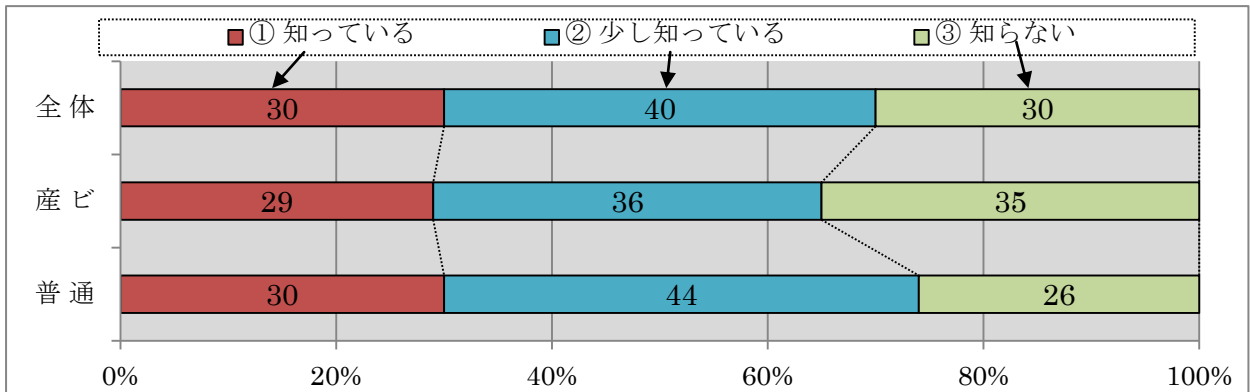
**考察** ・ 現段階の参加希望者は、昨年度と同数の18名で、そのうち短期が13名、長期が5名と、いずれも定員を大きくオーバーしており、まだ増える可能性もある。この希望者の増加は、参加資格の英検準2級取得者数の増加 (H28:13名 → H29:26名 → H30:10+α名) にもつながっている。

(5) 本町では油木高校生に対して各種検定受検料の補助 (合格者のみ) をしていますが、本年度、これらの制度を利用したことがありますか。

	普通科				産業ビジネス科				総 計
	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
英語検定	4	15	6	25	0	4	2	6	31
漢字検定	1	3	4	8	0	2	5	7	15
数学検定	2	1	3	6	0	1	1	2	8
ニュース検定	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家庭科 (被服・食物調理) 技術検定	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小型車両系建設機械 (整地等) 小型フォークリフト特別教育講座	0	1	3	4	0	12	15	27	31

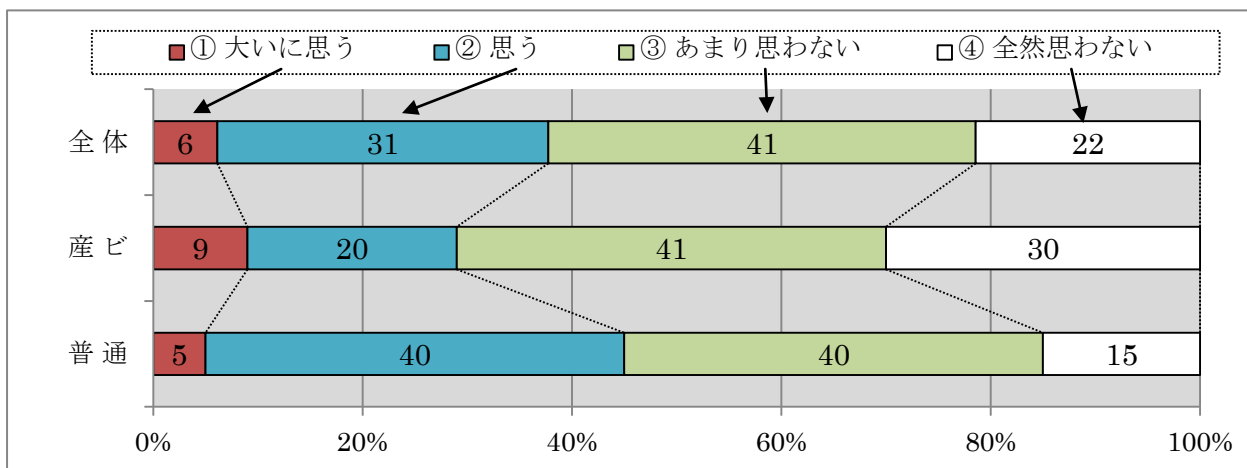
**考察** ・ 英語検定、小型車両系建設機械小型フォークリフト特別講習の利用者は多いが、ニュース検定と家庭科技術検定は受検者が2年連続0の状況にあり、来年度より補助対象から除外することとなった。

⑤ 神石高原町では油木高校のさらなる魅力づくりを創出するため、慶応大学の協力のもと、「油木高校魅力化+（ﾌﾟﾗﾝ）ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」に取り組んでいます。魅力づくりの具体策（神ゼミ、ドローンアカデミー、地域学 など）を現在検討中ですが、その「油木高校魅力化+（ﾌﾟﾗﾝ）ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」のことを知っていますか。



**考察** ・全体並びに学科ごとにおいてもあまり大きな差はないが、まだまだ周知には至っていない。それは、魅力づくりの具体策が途中段階のものもあるので、生徒への情報提供が遅れているものと思われる。  
 ・今後、油木高校ホームページへ「油木高校魅力化+（ﾌﾟﾗﾝ）ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」のコーナーがアップされ、順次紹介されていくものと思われる。

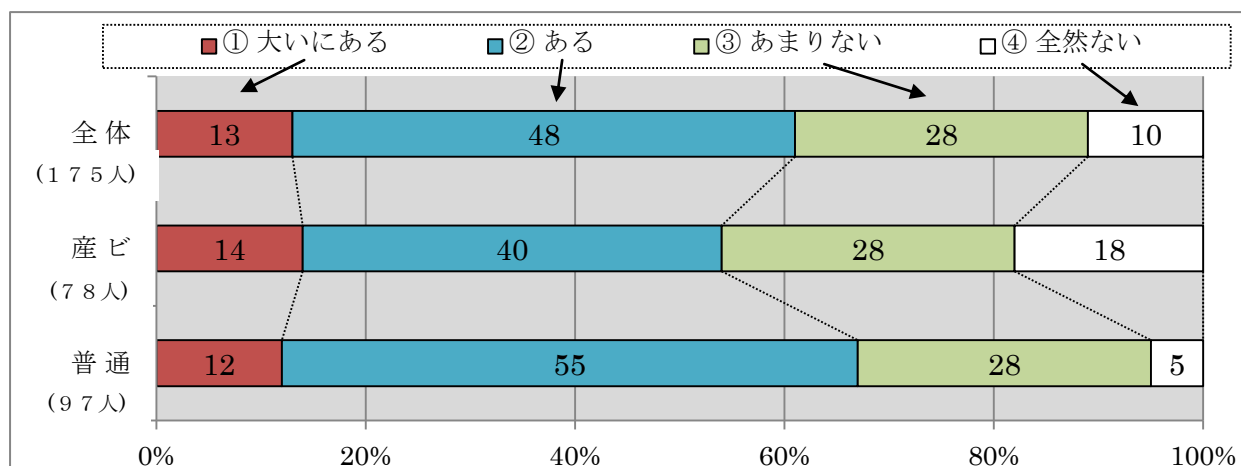
⑥ (1) あなたは、将来、神石高原町に住んでみたいと思いますか。



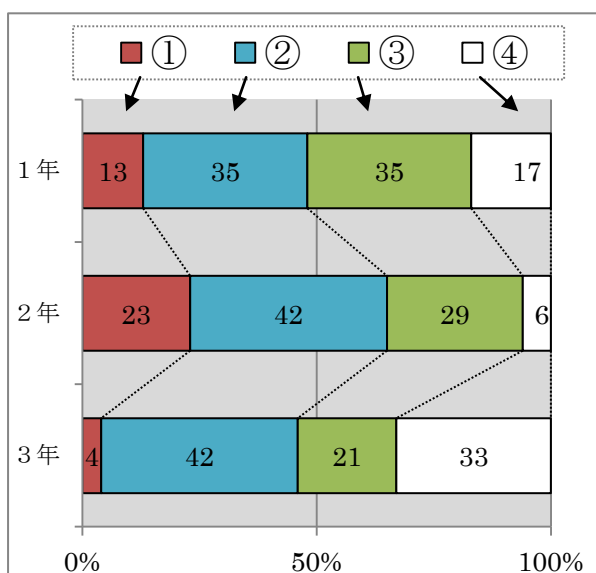
	普通科 (人)				産業ビジネス科 (人)				総計
	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
① 大いに思う	0	2	2	4	2	4	1	7	11
② 思う	6	13	18	37	3	8	5	16	53
③ あまり思わない	13	14	10	37	8	15	9	32	69
④ 全然思わない	8	4	2	14	10	4	9	23	37
小計	27	33	32	92	23	31	24	78	170

**考察** ・今回初めてこの質問をしてみたが、全体では、「大いに思う」が6%の11人と極少数数である。そして、「思う」は31%で約1/3であった。一方、「あまり思わない・全然思わない」の否定的回答は63%で、約2/3を占めている。  
 ・学科別では、「大いに思う」は産ビの方がやや多いものの、「思う」を含めた肯定的回答は普通科の方が多くなっている。

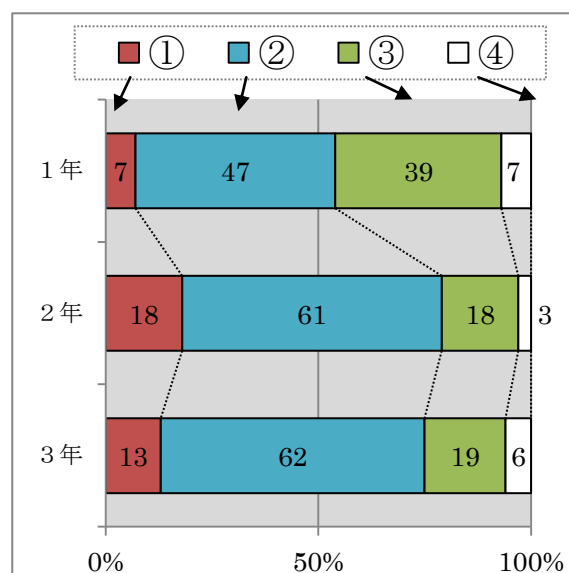
(2) あなたは、自分の地元貢献したいという気持ちがありますか。



< 産業ビジネス科 >



< 普通科 >



	産業ビジネス科 (人)				普通科 (人)				総計
	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
① 大いにある	3	7	1	11	2	6	4	12	23
② ある	8	13	10	31	13	20	20	53	84
③ あまりない	8	9	5	22	11	6	6	23	45
④ 全然ない	4	2	8	14	2	1	2	5	19
小計	23	31	24	78	28	33	32	93	171

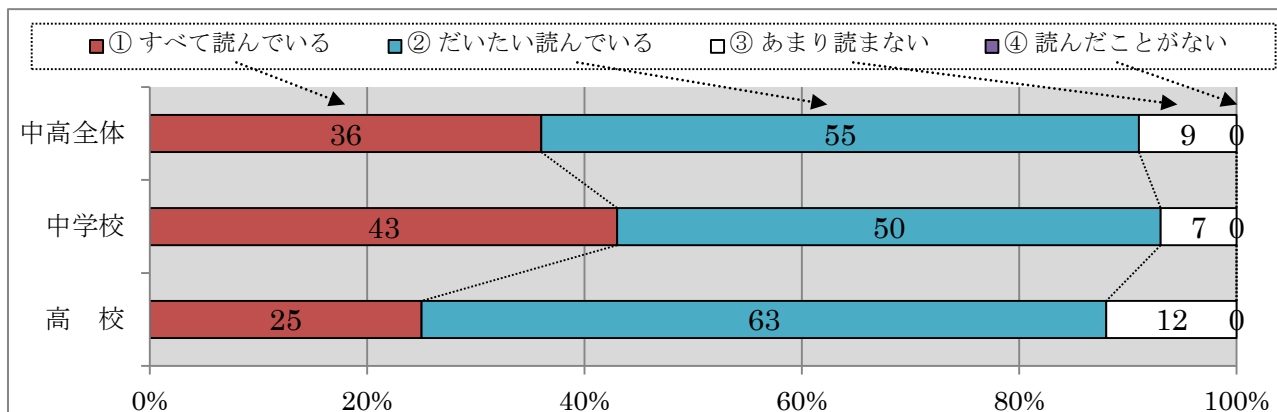
**考察** ・全体では、地域貢献意欲が「大いにある」と回答した生徒が13%あり、「ある」を含めた肯定的回答は61%と半数以上あり大変喜ばしいことである。

- ・学科別では、あまり大きな差は見られないが、やや普通科の方が肯定的回答（大いにある・ある）が多い。
- ・学科別&学年別では、肯定的回答が70%以上は普通科の2年生(79%)と3年生(75%)であった。しかし、地域貢献意欲が「大いにある」で最も多いのは、産ビ科2年生であった。



### Ⅲ. 町内中学校・油木高校教職員に係るアンケート調査の結果と考察

1 広報紙「中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」・「神石高原町が実施している油木高校生への10の支援」リーフレットや「油木高校ガイドブック」などを学校に配布していますが、読まれていますか。

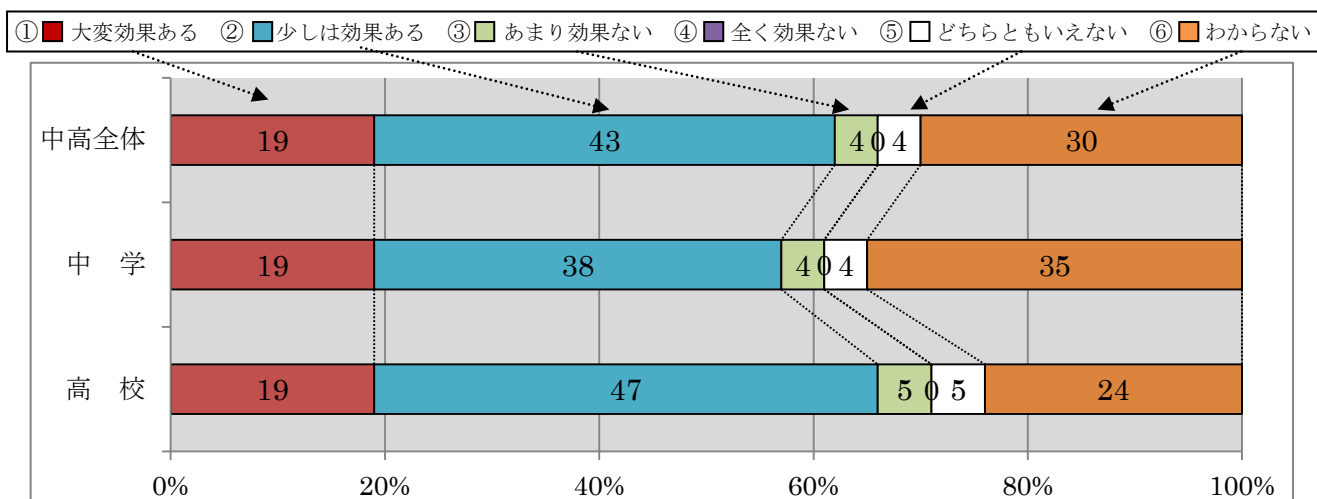


**考察** 全体では、90%以上はだいたい読んで頂いている。また「あまり読まない」が10%以下で、「読んだことがない」は0%であった。しかし、今後も興味をもって読んで頂けるような中身づくりに努めていく必要がある。

2 中高連携の中で、交流授業、部活動交流、学校行事への参加、教職員の交流などが実施されていますが、連携教育の効果についてどう思われていますか。

(1) 定例的な交流授業

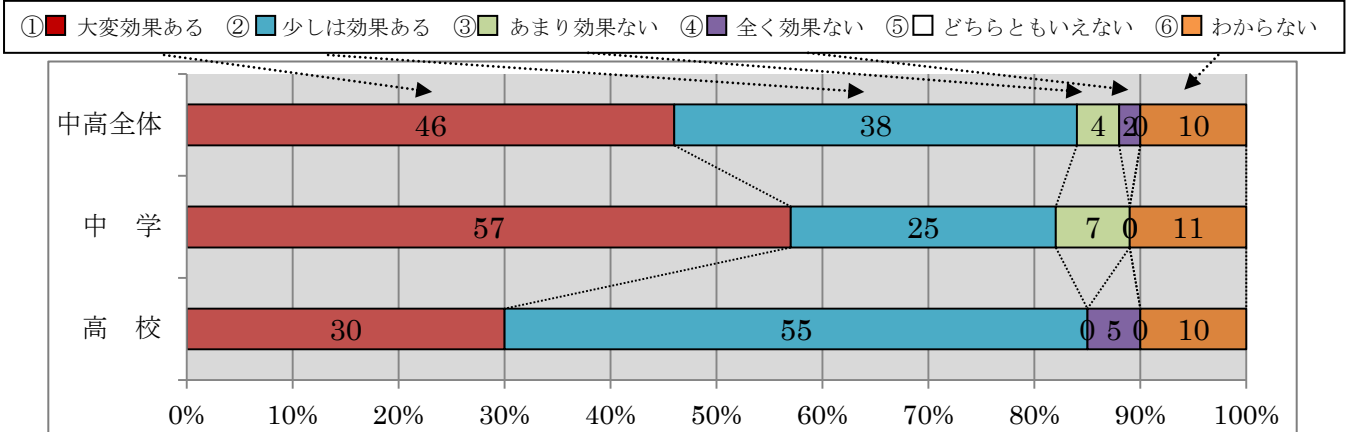
(高→中：英語，中→高：音楽・英語)について、どう思われていますか。



<推進上の課題>

- (中)・授業で生徒の様子を見てどんな生徒かを理解し、把握してもらう必要がある。連携型入試はそこに意味があると思う。
- ・教科内の効果はあるが、庶務の効用を広げていくことがなかなかできない。
  - ・本務校の中学校を留守にする時間が長くなると中学校内の連携が不十分になる。
  - ・指導の継続性
- (高)・転任一年目で客観的に判断できていない。
- ・全ての科目で月1で行うともっと幅広い交流になるはず。
  - ・時間割作成に制限がかかってしまう。

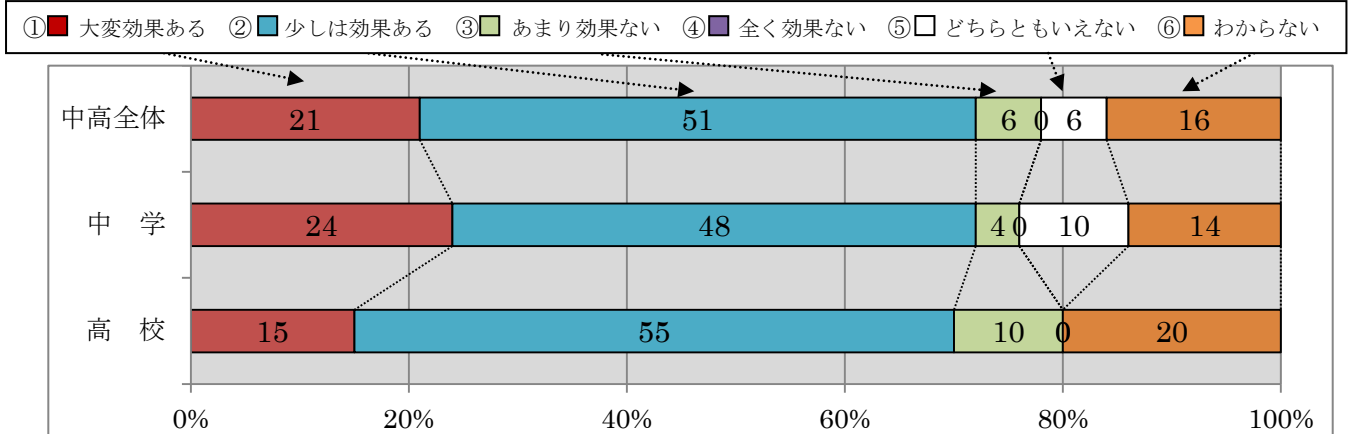
(2) 部活動交流について、どう思われていますか。



<推進上の課題>

(中)・移動手段がもっとあればよい。行きづらい。 ・計画的、意図的にはできていない。 ・一部の部活動になっている。  
 ・移動などの交通手段について (高)・交通手段さえあれば、もっとやればよい。

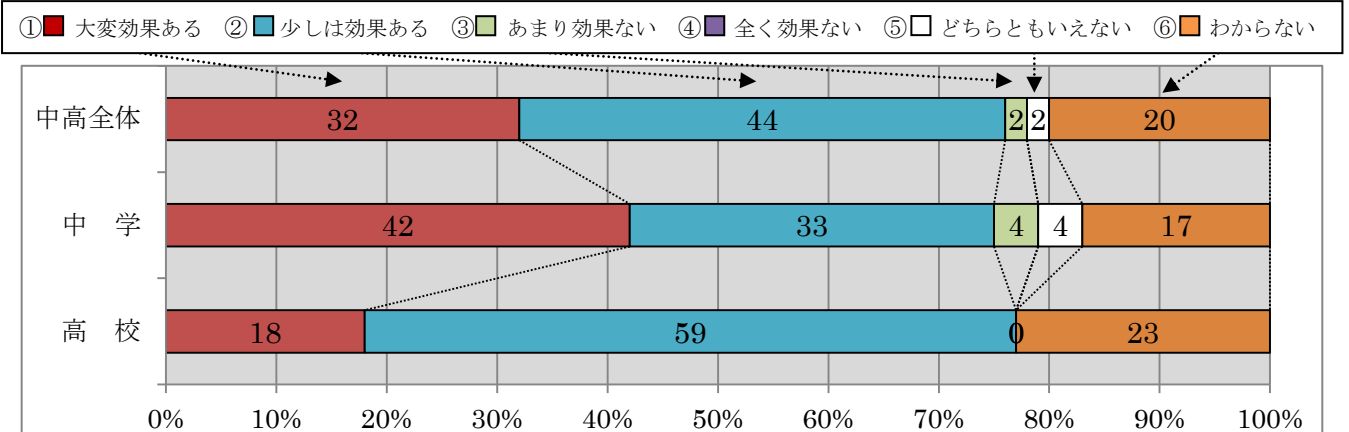
(3) 学校行事（体育祭・文化祭・学習成果発表会など）への参加について、どう思われていますか。



<推進上の課題>

(中)・学習成果発表会の内容が重要。中学生に高校生はさすがと思わせてほしい。 ・体育祭のリレーへの参加だけでは効果的  
 と言えない。 ・ねらいをもっと明確にしたい。 (高)・日程の設定が難しい。 ・計画的に取り組むべき（日程を調整するなど）

(4) 教職員の交流について、どう思われていますか。



<推進上の課題>

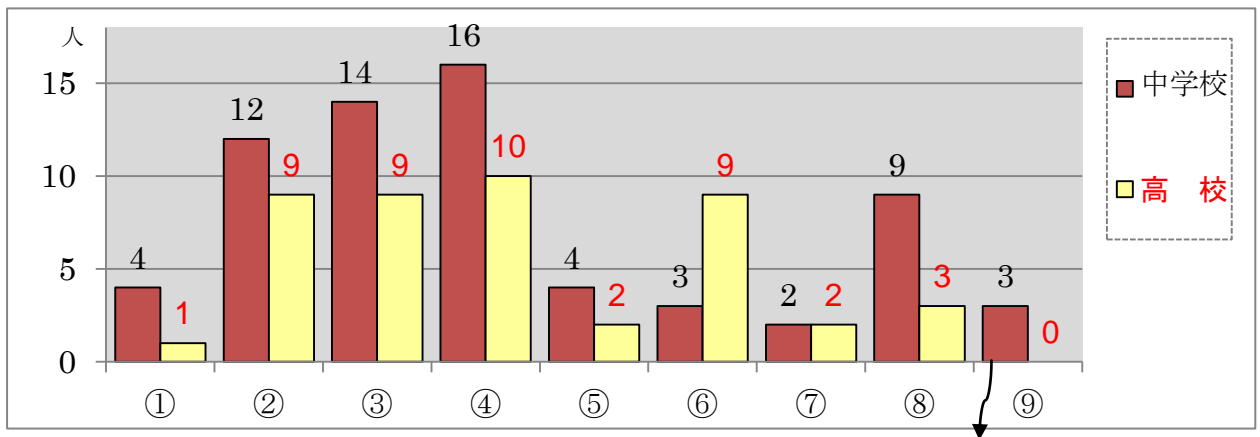
(中) ・具体案はないが、もう少し関わる機会が増えればよいと思う。  
 ・機会が少なく、あまり交流ができていないように思う。  
 ・人の出入りが多く、うまく授業に組み込めない時がある(英語)

(高) ・もっとお互いに生徒(卒業生も含む)の様子の交流が必要。  
 ・計画的に積み上げができるとさらに良いと思う。  
 ・機会が増えた方がよい。

**考察** ・中高全体では、「定例的な交流授業」以外は「①大変効果がある、②効果がある」とする肯定的評価が70%以上ある。そして、いずれの項目も高校より中学校の方が概して評価が高い。  
 ・「定例的な交流授業」において学習効果を上げていくための対策を中高教科部会等で検討していく必要がある。  
 ・今回、各質問項目に関わって、「推進上の課題」をあげて頂いているので、それぞれの関係部署で検討してみる必要がある。

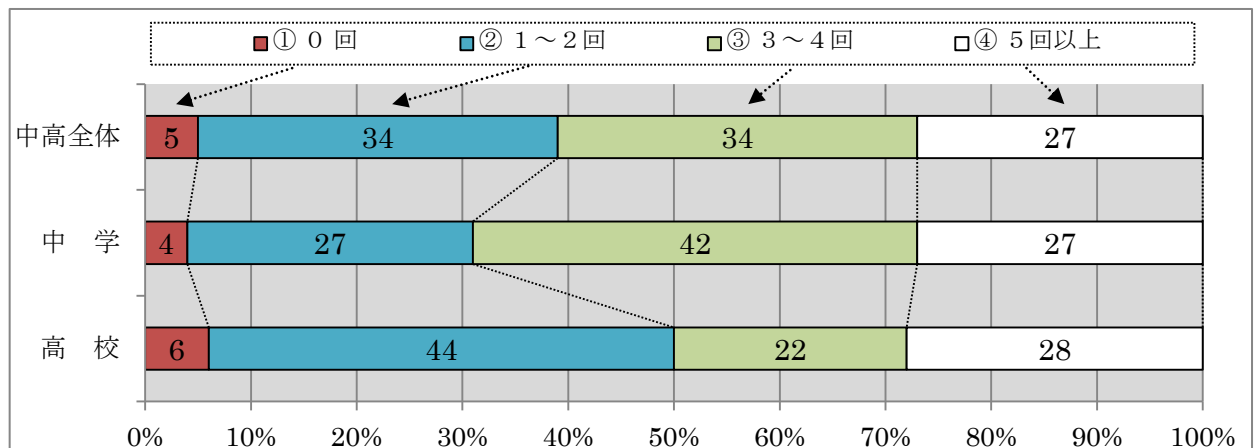
③ (1) 下欄 ①～⑨の中高一貫教育に係る取り組みの中で、本年度自分が参加したものについて、該当する番号にすべて○印をしてください。(複数回答可)

- ① 定例的な交流授業や臨時的な出前授業
- ② 部活動交流
- ③ 町研夏季全体研修会
- ④ 教科部会(授業研究など)
- ⑤ 教科外部会(進路・生指・連携など)
- ⑥ 中高一貫教育講演会(11月13日)
- ⑦ 中高の公開研究会
- ⑧ 中高の行事(中→高, 高→中の文化祭・体育祭への参加)
- ⑨ その他( )



・はやぶさ整体験会 ・高校の卒業式 ・油木高校魅力化プロジェクトのためのワークショップ

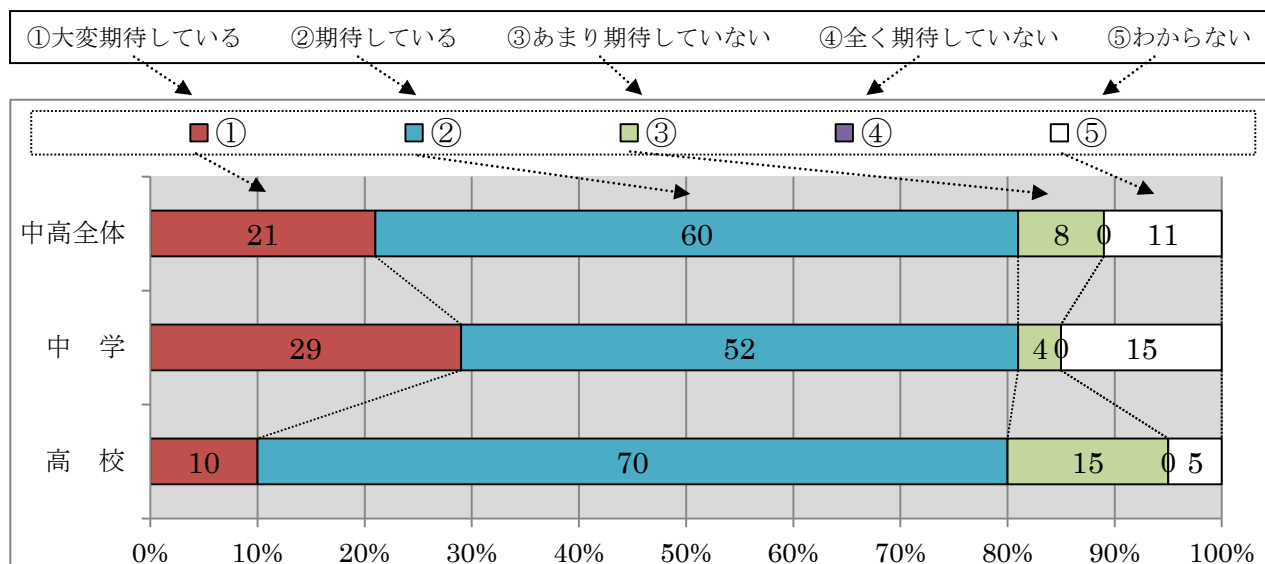
(2) 上記 ③ (1)で、参加した回数は総合計で何回ありますか。



**考察** ・連携教育の3本柱としている、教科連携→①・③・④・⑦、教科外連携→③・⑤・⑦、部活動・生徒会・行事連携→②・⑤・⑧ で見た時、中高共にだいたい同じような傾向で参加されている。ただ、⑥「中高一貫教育講演会」は油木高校の魅力化に関わる内容であっただけに高校の参加が多い。しかし、⑧「中高の行事」では、中学校の参加が人数的に多い。

・本年度は、油木高校の魅力づくりに関わって、油木高校の「総合的な学習の時間」のカリキュラムづくりで小中高の情報交流なり部会が設けられた。これは、今後の中高一貫教育の中身を充実していく上で大変重要なことである。是非とも継続した取組が必要である。

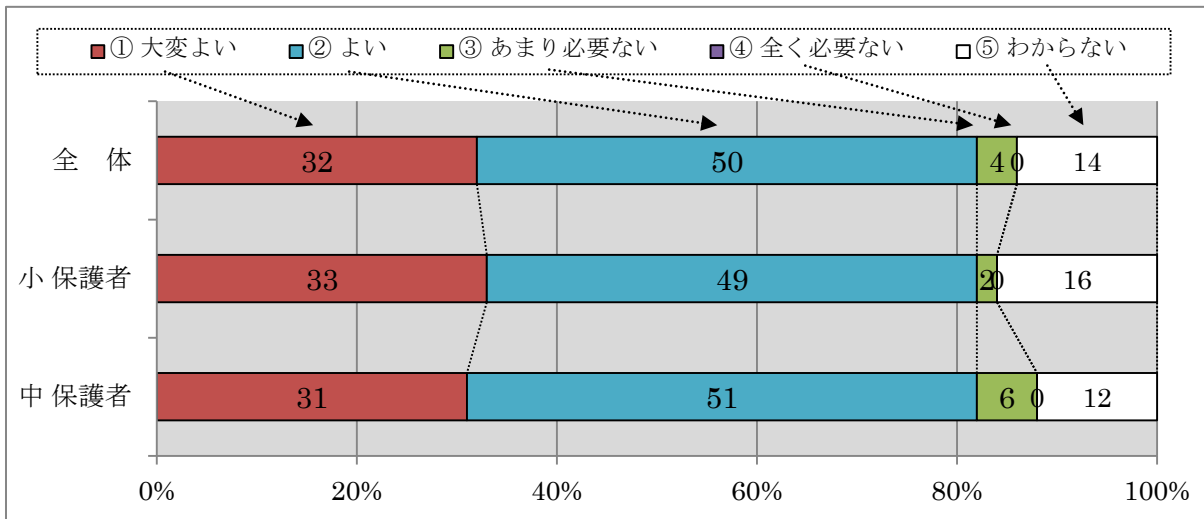
4 本町と油木高校では、慶應大学との連携協力協定事業の一つとして「油木高校魅力化+プロジェクト」に取り組み、その具体策（総合学習のカリキュラム・神ゼミ・ドローンアカデミー）を現在検討中ですが、この事業にどの程度期待感をもっておられますか。



**考察** ・中高全体では、「大変期待している」・「期待している」の肯定的回答が81%と非常に高い評価である。  
 ・中高別では、「大変期待している」・「期待している」の肯定的回答は中高ともに80%とほぼ同じであるが、「大変期待している」が高校は少なく、「あまり期待していない」も高校が多いのは気になるところである。今後取り組む上で、どこあたりでそう感じられているのか、追求なり検討してみる必要がある。

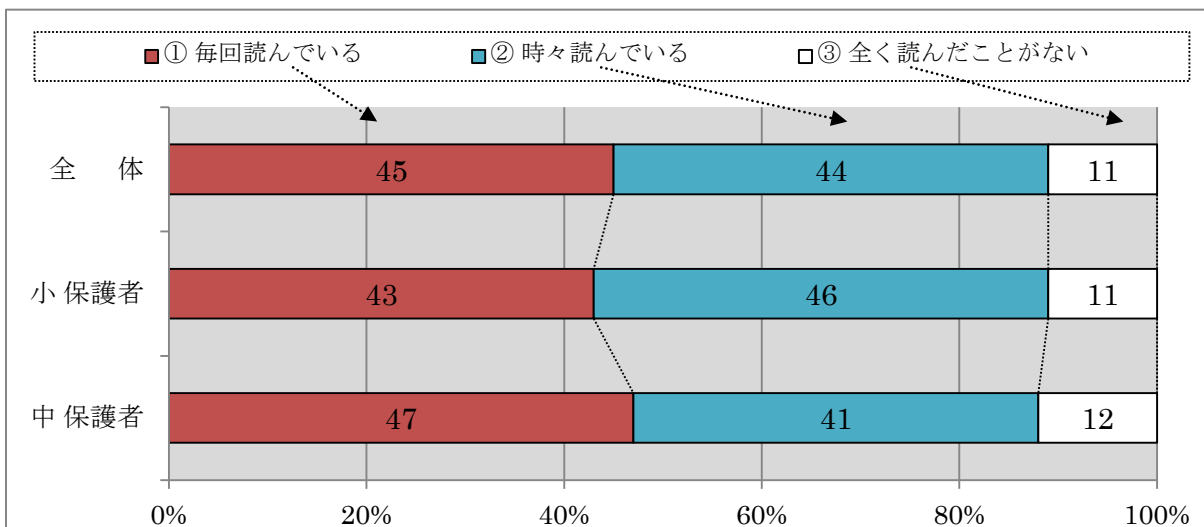
#### Ⅳ. 小学校(4～6年生)・全中学校 保護者 に係る調査の結果と考察

- ① 油木高校と町内中学校との連携教育（例：中高交流授業，部活動交流，学校行事への相互参加，教職員の交流など）が実施されていますが，そのことについてどう思いますか。



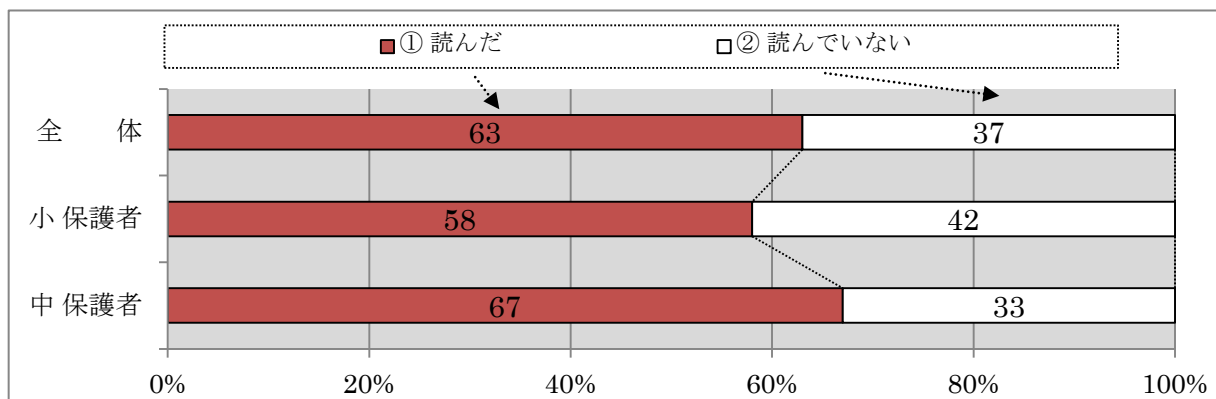
**考察** 全体としては「大変よい・よい」とする肯定的回答（82%）が「あまり必要ない・全く必要ない」の否定的回答（4%）を大きく上回っている。しかし、「わからない」とする数値（14%）が小・中学校共に10%以上あり，連携教育を今後一層積極的に展開していく中で，連携教育の様子や効果について引き続き情報提供していく必要がある。

- ② 広報紙「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」を年3回町内全戸に配布していますが，読んでおられますか。



**考察** 多くの保護者にだいたい読んで頂いている（89%）が，「全く読んだことがない」は昨年度（6%）よりも約2倍に増えた。今後も「毎回読んでいる」が50%以上になるよう魅力ある中身づくりに努めていかなければならない。

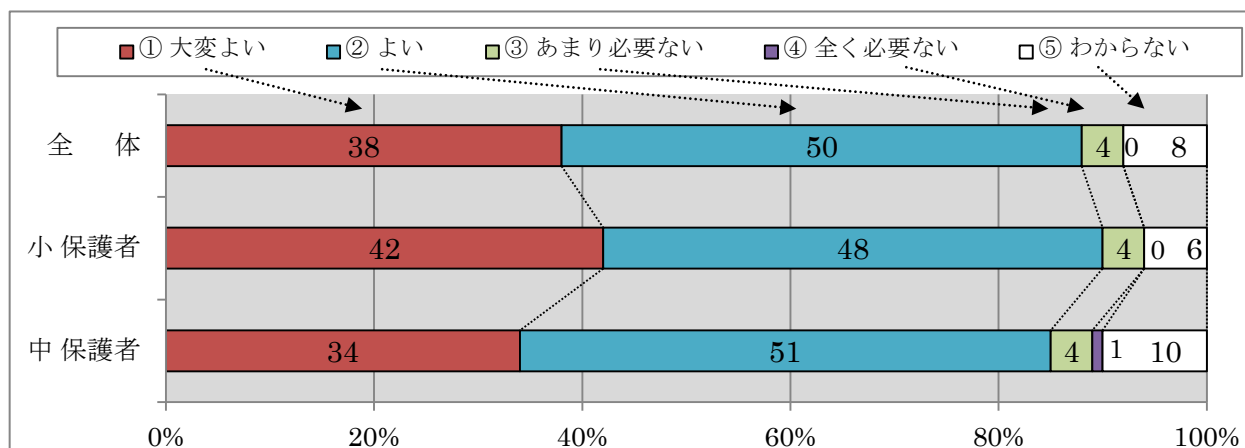
③ 昨年、町内全戸に配布した『神石高原町が実施している油木高校生への10の支援』リーフレットを読まれましたか。



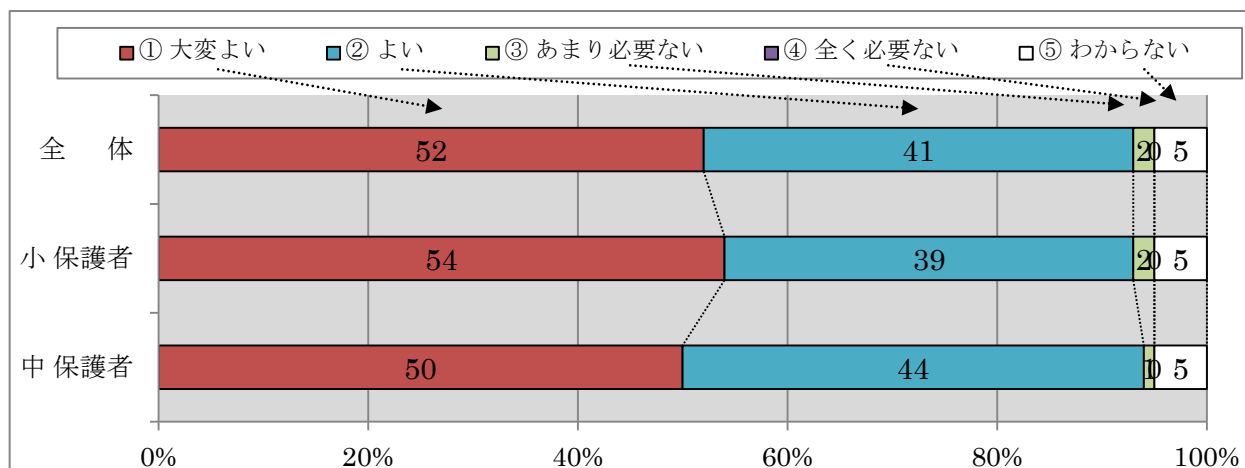
**考察** 全体としては、63%（昨年度 66%）読まれているが、若干昨年度よりも下回った。この「油木高校生への10の支援」は、油木高校の魅力でもあるので、しっかりと関係保護者に知ってもらえるよう、今後もリーフレットの配布は継続し、尚且つ高校進路説明会などでも高校や町からのPRをしていく必要がある。

④ 本町が油木高校の魅力策として様々な教育支援を実施していますが、それらについて、次の質問にお答えください。

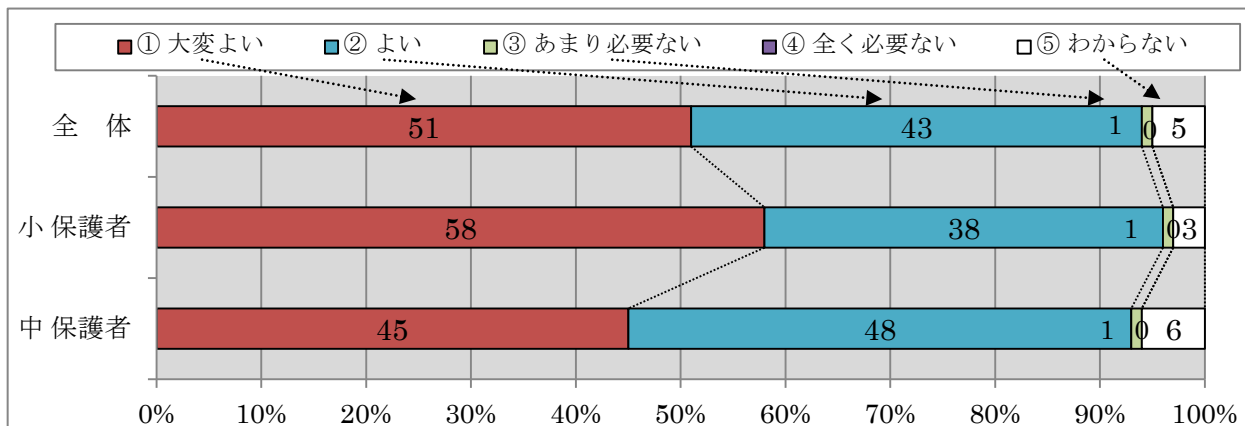
(1) 大手予備校の通信衛星授業の受信補助について、どう思いますか。



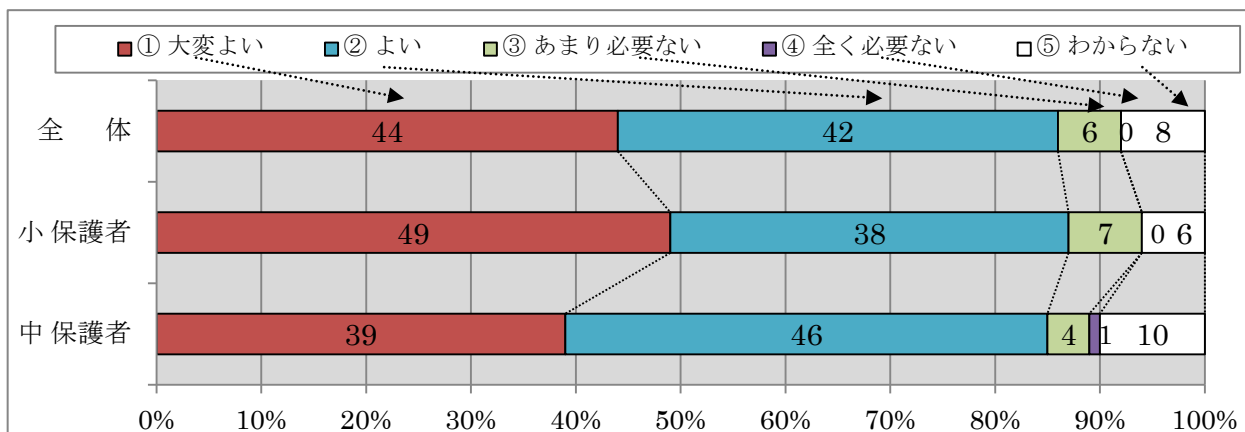
(2) 部活動での遠征費補助について、どう思いますか。



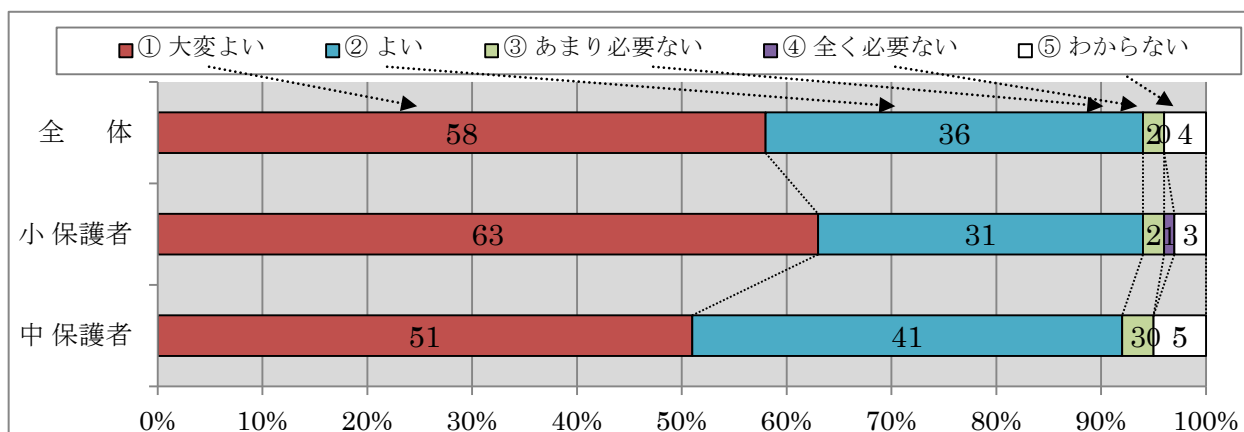
(3) 油木高校内での学習支援塾の開設について、どう思いますか。



(4) 海外短期（語学・農業）研修事業への支援について、どう思いますか。



(5) 各種検定受験料の補助（ただし合格者のみ）について、どう思いますか。



**考察**・ すべての項目で、85%以上が「大変よい・よい」との肯定的回答で、高い評価を受けている。

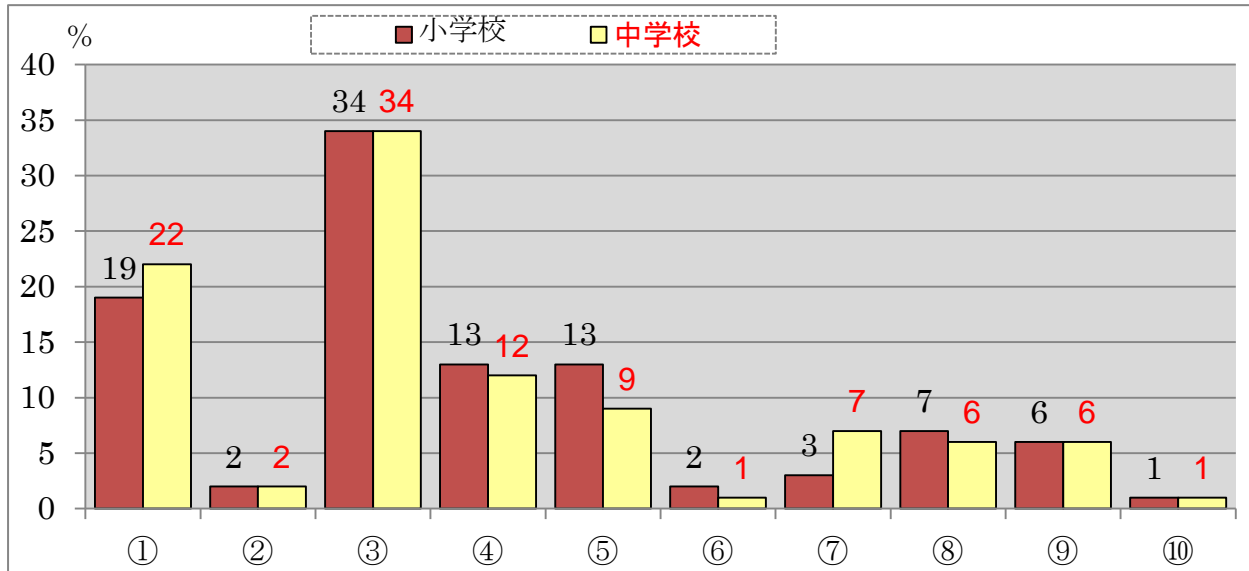
・ 小・中学校別で見た時、あまり大きな差はないものの、いずれの項目においても小学校保護者の方が肯定的回答が多い。

いずれにしても、多くの項目において保護者の期待度は高いだけに、今後とも支援制度の維持や中身の充実を図りながら、更なる油木高校の魅力づくりに繋げていく必要がある。

⑤ 子どもさんの高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことはどんなことですか。

下の①～⑩の中から重要視したいものを2つ選んでください。

- |         |          |            |         |         |
|---------|----------|------------|---------|---------|
| ① 通学便   | ② 伝統や校風  | ③ 子ども本人の希望 | ④ 学習環境面 | ⑤ 教育内容面 |
| ⑥ 施設設備面 | ⑦ クラブ活動面 | ⑧ 進路実績     | ⑨ 経費面   | ⑩ その他   |



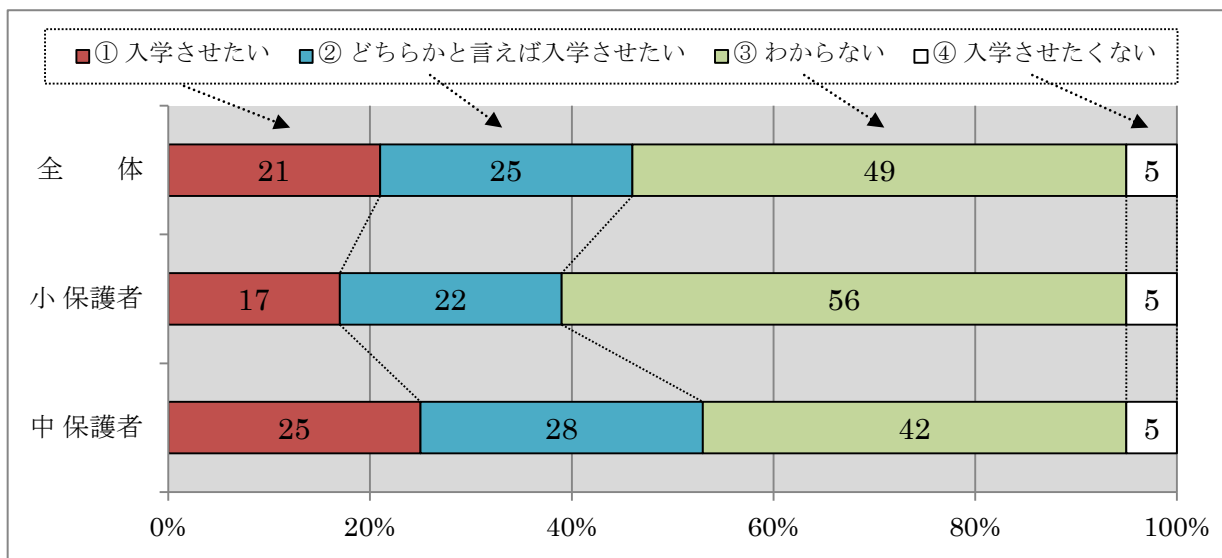
**考察** ・小学校と中学校を比較した時、例年のごとくほとんど同じような傾向にある。

即ち、高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことで多いものとしては、③「子ども本人の希望」が小中学校共に際立って多く、続いて①「通学便」④「学習環境面」⑤「教育内容面」である。

これらのことから、保護者の多くが「子ども本人の希望」を最優先される傾向にあり、児童・生徒への油木高校の理解や関心を深めていく取組みが重要である。

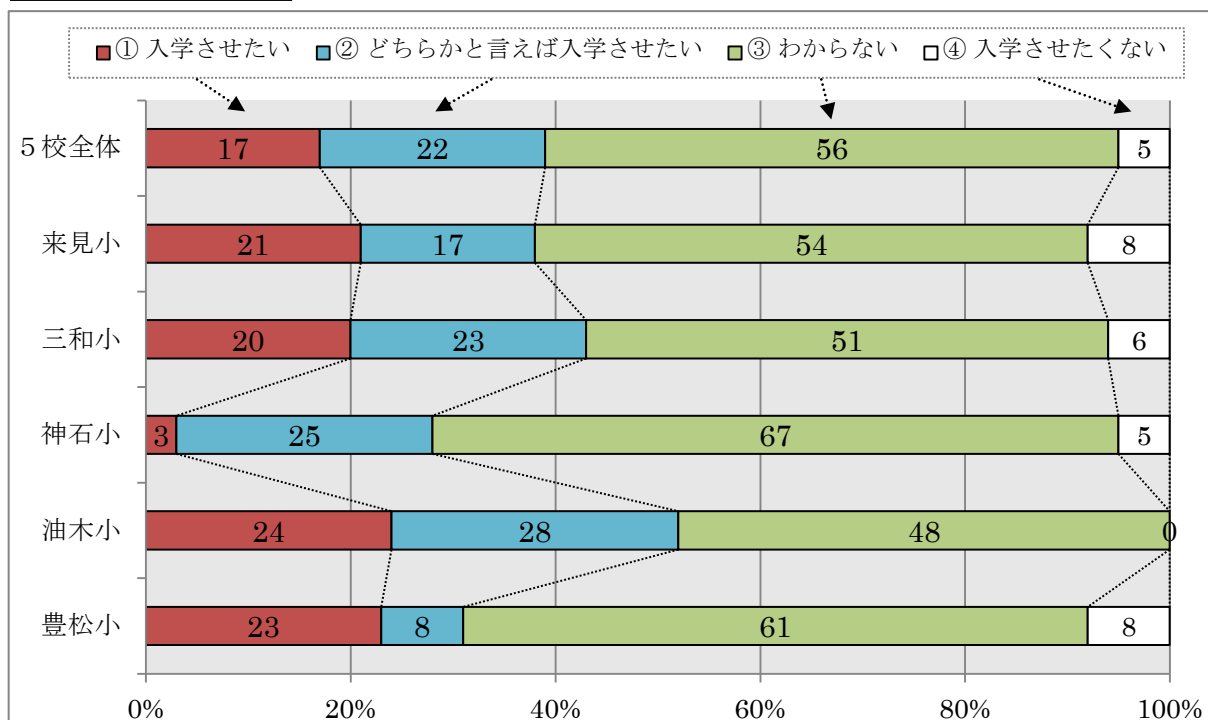
また、「通学便」もかなり重要度が高いことから、町内唯一の油木高校を存続させていかなければならない。

⑥ あなたの子どもさんを油木高校に進学させたいと思いますか。

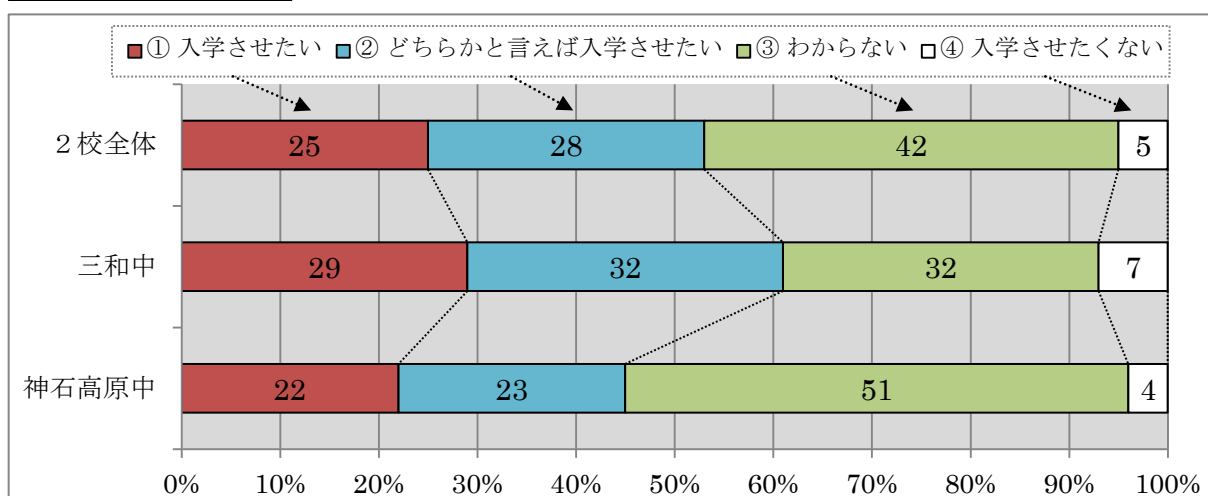




＜各小学校別では＞



＜各中学校別では＞



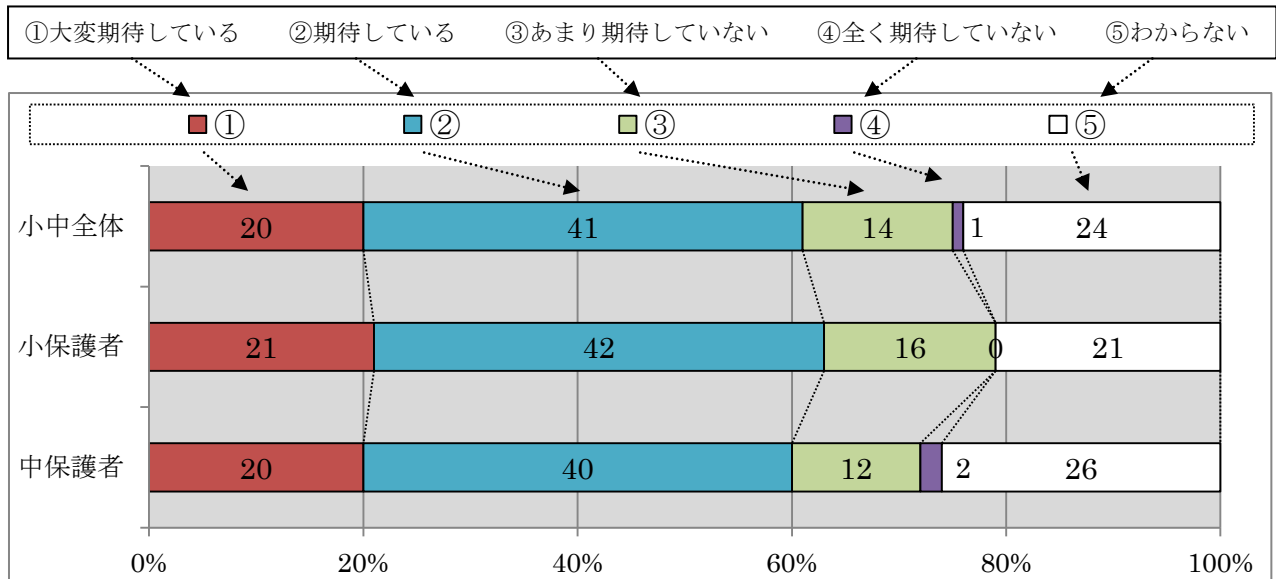
**考察** ・全体としては、「入学させたい」が46%（昨年：48%、一昨年：50%）と若干ながら減少傾向にある。

・小中学校別では、ここ最近では「入学させたい」が中学校の方が3～4%上回っているだけで、あまり差は見られなかったが、本年度は14%と大きな差で中学校が上回った。

・各学校別の小学校でも、2～3年前から「入学させたい」肯定的回答50%以上が複数校（3校）あったが、本年度は以前と同じ油木小（52%）だけとなった。

・中学校においても、これまでは両校とも「入学させたい」回答率が50%以上であったが、本年度は神石高原中が初めて50%以下であった。しかし、小中学校共に「わからない」の回答が多いだけに、今後の取組みによって「入学させたい」と思われるような教育実践や魅力づくりに向けて、学校現場と教育行政との両面から努力していく必要がある。

7 本町では現在、慶應大学との連携協力協定事業の一つとして「油木高校魅力化プロジェクト」に取り組み、具体策（総合学習のカリキュラム・神ゼミ・ドローンアカデミー）の検討中ですが、この事業にどの程度期待感をもっておられますか。



**考察** ・小中の全体では、「大変期待している・期待している」の肯定的回答が61%で、50%以上ではあるが、教職員の肯定的回答（81%）よりもかなり低い。これは、現段階で本事業の中身について、保護者に十分な情報提供ができていないことも影響していると思われる。

・小中別でも、それぞれの回答数値にあまり差はない。

・今後その中身を地域・関係者等へしっかりと情報提供（情報紙の配布，説明会等の実施，ホームページの作成など）していく必要がある。

## V. 町内地域に係るアンケート調査の結果と考察

- 1 下欄(1)～(4)の連携型中高一貫教育に関連する行事で、本年度参加されたものがあれば、該当番号に○印で答えてください。(複数回答可) ④：(4)の①～⑨の中で該当する番号にすべて○印で答えてください。(複数回答可)

- (1) 「連携型中高一貫教育支援会議」総会 (6月25日)  
 (2) 「油木高校を育てる会」理事会 (8月6日) (3) 中高一貫教育講演会 (11月19日)  
 (4) 油木高校に係る行事  
 ① 学園祭 (6月15・16日) ② 体育祭 (9月22日)  
 ③ 農業系の発表会 (農業クラブ意見発表会など) ④ 部活動等の大会 (地区, 県, 全国大会など)  
 ⑤ 総合的な学習成果発表会 (「明日ある我ら」発表会) ⑥ ヒューマンフェスタ (11月10日)  
 ⑦ 油木高校ナマズ料理の日 (毎月第4日曜日) ⑧ その他【 】

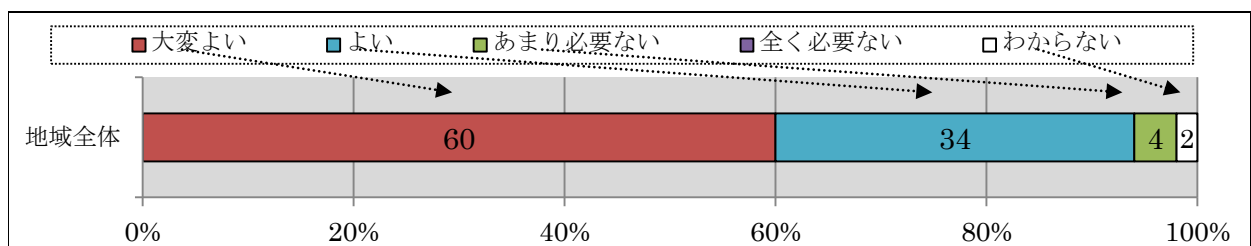
≪ 回答頂いた方は 81名/104名(78%)でした。 その中で参加された人数内訳は次の通りです。≫

入学式, 卒業式, 高校野球, 学園祭, 次世代議会

行事名	(1) 支援会議総会	(2) 油木高校を育てる会理事会	(3) 中高一貫教育講演会	(4) 油木高校に係る行事								
				① 学園祭	② 体育祭	③ 農業系発表会	④ 部活動	⑤ 学習成果発表	⑥ ヒューマンフェスタ	⑧ 油高ナマズ日	⑨ その他	
参加人数	本年	35人	16人	37人	19人	19人	6人	6人	5人	16人	9人	5人
	昨年	36人	13人	33人	18人	12人	7人	10人	10人	21人	9人	8人

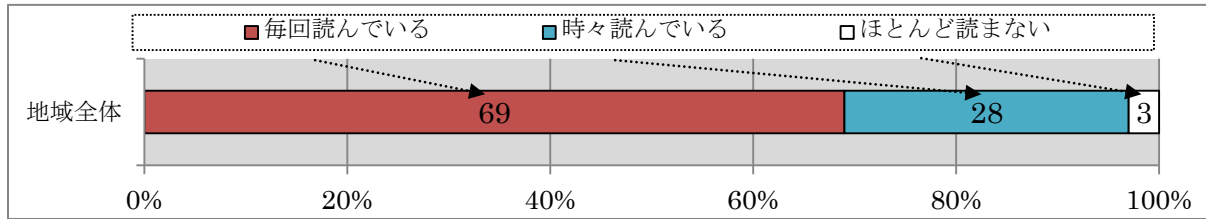
**考察** 地域編のアンケート調査は中高一貫教育支援会議役員を対象に実施し、回答者 81 人 (昨年 : 70 人) で、その内、支援会議主催行事への参加者は「(1)支援会議総会」が 35 人、「(3)中高一貫教育講演会」が 37 人であった。また、油木高校の色々な行事に毎年熱心に参加いただいております、地域の温かい理解と支援に感謝しながら、中高一貫教育が更に発展するよう努力していく必要がある。また、これまでの課題であった「行事は連携校同士の同一日開催は避けて欲しい」との要望に対して、本年度は連携校同士配慮しながら実施をされたようである。

- 2 油木高校と町内中学校との連携教育 (例 : 中高交流授業, 部活動交流, 学校行事への相互参加, 教職員の交流など) が実施されていますが、そのことについてどう思いますか。



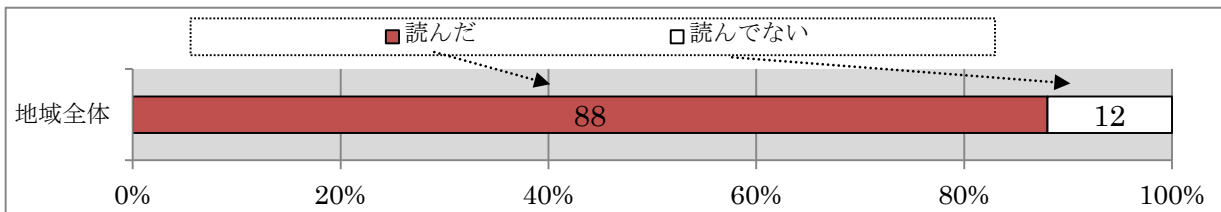
**考察** 地域の多くの方々 (94%) は、中高連携教育を「よい」とする肯定的回答であるが、極少数ながら「あまり必要ない」との否定的回答 (4%) もあり、今後更なる中身の充実を図り、情報提供していく必要がある。

③ 広報紙「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」を年3回町内全戸に配布していますが、読まれていますか。



**考察** 「毎回読んでいる」が69%と前年度（76%）よりやや減少しているが、多くの方々に読んで頂いている。今後一層「毎回読んでいる」が向上していくよう中身の充実に努めていかなければならない。

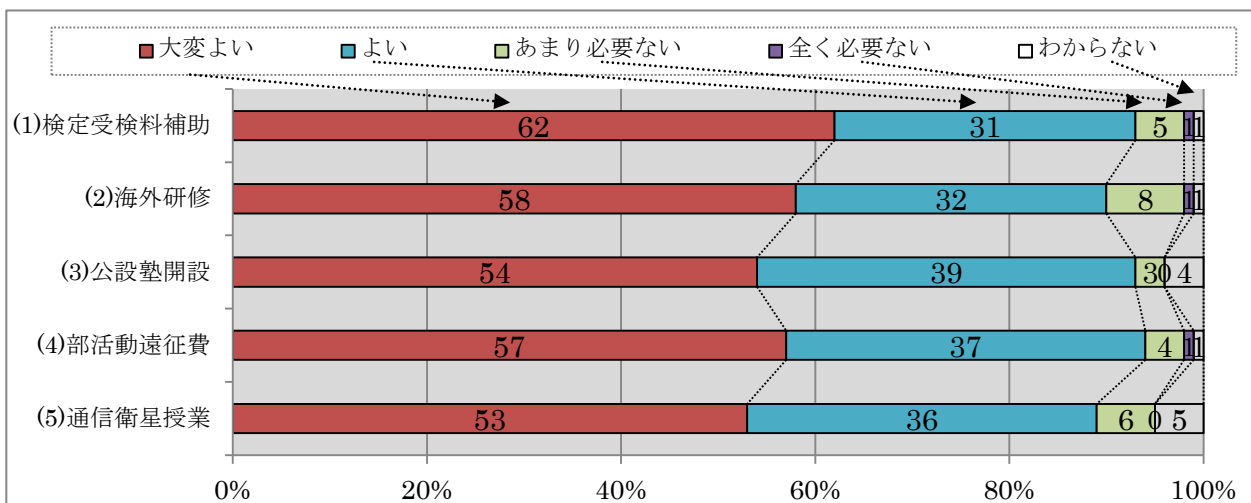
④ 昨年、町内全戸に配布した『神石高原町が実施している油木高校生への10の支援』リーフレットを読まれましたか。



**考察** 本年度も多くの方々に（88% 昨年：78%）に読んで頂いているが、この「10の支援」は、油木高校の魅力でもあるので、地域の方々にもしっかりと知ってもらい、声を聞きながら検討していくためにも、リーフレットの配布は今後も継続していく必要がある。

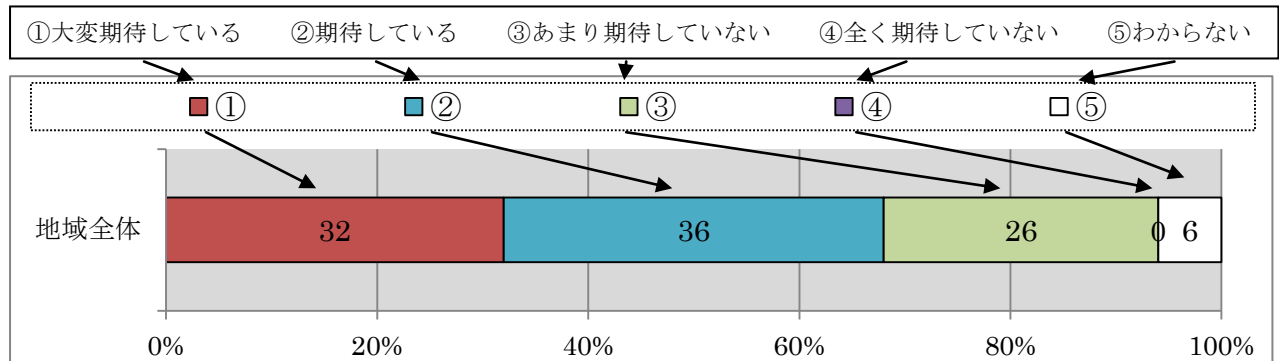
⑤ 本町が油木高校の魅力策として様々な教育支援を実施していますが、それらについて、次の質問にお答えください。

- (1) 各種検定の受検料補助（合格者のみ）について、どう思いますか。
- (2) 海外（短期・長期）研修事業への支援について、どう思いますか。
- (3) 油木高校内での公設塾「はやぶさ塾」の開設について、どう思いますか。
- (4) 部活動での遠征費補助について、どう思いますか。
- (5) 大手予備校の通信衛星授業の受信補助について、どう思いますか。



**考察** 各項目とも「大変よい」「よい」を合わせてほしい90%以上あり、肯定的回答が非常に多い。しかも「大変よい」がほしい50%以上あり、最も多い。  
この数値が示すように、地域住民の期待も大きいことから、今後もこれらの支援は継続していく必要がある。

⑥ 本町では現在、慶應大学との連携協力協定事業の一つとして「油木高校魅力化プロジェクト」に取り組み、その具体策（総合学習のカリキュラム・神ゼミ・ドローンアカデミーなど）を検討中ですが、この事業にどの程度期待感をもっておられますか。



**考察** ・地域全体では、「大変期待している・期待している」の肯定的回答が68%と小中学校保護者（61%）と同様に50%以上あるが、教職員の肯定的回答（81%）よりもかなり低い。これは、本事業の中身が现阶段では十分に把握できていないことによるものと考ええる。

いずれにしても、今後その中身を地域・関係者等へしっかりと情報提供（情報紙の配布、説明会等の実施、ホームページの作成 など）していく必要がある。